

第 1 - 2 期の活動計画の達成状況

重点分野 1：大学拡充計画の推進						
<p>【基本方針:5】 医療・福祉の総合大学化の完成と改組</p> <p>【基本方針:6】 新学部や附属病院の進展を検討</p> <p>【中期計画】 2021 年度-2026 年度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療・福祉の総合大学化の完成 2. 大学の発展と更なる進歩を目指す 3. 附属病院の健全運営の取組と新たな分野への発展の取組 4. 新学科等増設に伴う施設整備計画の検討及び実行 5. 計画的な施設整備による安全安心の環境確保 						
<p>責任者:鈴木秀幸 (法人事務局長)</p> <p>分担者:辻 紀子 (企画広報課長)、辻井悦生(管財課長)、向井正治 (医療福祉事業管理室)、濱口直樹 (桜の森病院事務長)</p> <p>事務局:企画広報課</p>						
	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度
中期計画 1.	—					→
中期計画 2.	—					→
中期計画 3.	—					→
中期計画 4.	—					→
中期計画 5.	—					→
2022 年度活動計画						
対応する中期計画項目	活動計画内容					
1. 医療・福祉の総合大学化の完成	<p>①医療・福祉の総合大学として、学部、学科、専攻の更なる充実を図り、社会のニーズに適応した学部学科等の新設、再編について検討、推進する。</p> <p>◆他の医療系大学の学部、学科組織の動向、社会のニーズ等を継続的にウオッチし、適応した学部、学科等の新設、再編に即時対応できるよう体制を整える。</p> <p>また、増設で分かり難くなった現在の学部・学科編成を高校生目線で分かりやすいように改組することを検討する。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>下記②に加えて、医療健康データサイエンス学科 (2021 年 4 月開設) に 2023 年 4 月 (2 年次) から「データサイエンス学専攻」と「診療情報管理学専攻」を設置し、それぞれの専攻での学びと目指す資格を明確化し、卒業後は、医療機関だけでなく、IT 企業、製造業、行政等で活躍できる課題発見・課題解決・社会実装ができるデータサイエンティストを育成することを目指す学科に再編した。</p> <p>②2023 年 4 月開設を目指し、現在の保健衛生学部医療栄養学科管理栄養学専攻、臨床検査学専攻を改組し、保健衛生学部医療栄</p>					

	<p>養学科、保健衛生学部臨床検査学科として改組、文部科学省等への申請を進める。(2022年4月事前相談、7月学科設置届出書提出、9月受理予定)</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>2023年4月、現在の保健衛生学部医療栄養学科管理栄養学専攻、臨床検査学専攻を保健衛生学部医療栄養学科、保健衛生学部臨床検査学科として改組し、高校生目線からも分かりやすい学科編成とした。文部科学省、厚生労働省への申請を計画どおり進め、手続きが完了した。</p>
<p>2. 大学の発展と更なる進歩を目指す</p>	<p>①医療・福祉以外の分野の学部創設の可能性について検討する。医療・福祉の総合大学として、大学がさらに発展していくように健康を切り口に、医療・福祉以外の分野の学部設立の可能性を検討する。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>医療・福祉以外の分野の学部、学科、専攻の創設の可能性について、他大学や関係法令等を調査し検討を重ねた。今後も継続して検討を行う。</p>
<p>3. 附属病院の健全運営の取組と新たな分野への発展の取組</p>	<p>①桜の森病院の ISO9001 認証の継続</p> <p>◆2022年9月 ISO 維持審査を受審する。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>認証機関による維持審査(2022/9/9受審)を合格し、10月7付で認証維持が決定した。</p> <p>②三重県内主要病院との関係強化</p> <p>◆三重県内主要病院の地域連携室へのソーシャルワーカー定期訪問(半期に1回)による情報発信・情報収集に努め関係強化を図る。</p> <p>□達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) ■遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>コロナ禍により定期訪問は延期したが、電話で定期的に要望や改善点などの聞き取りを行っている。</p> <p>③日本緩和医療学会認定研修施設の認定について、8月申請、10月取得を目指す。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>8月26日に申請し、10月1日に取得した。これにより当院が日本緩和医療学会認定研修施設として認められた。</p> <p>④外部研修会の実施</p> <p>◆一般市民を対象に緩和ケアにまつわる情報提供を行うため市民公開講座を開催する。(9月または10月を予定)</p> <p>◆連携医療機関医師等に対する緩和ケア病棟入院料施設基準に準拠した緩和ケア研修を年度内に実施する。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>市民公開講座を1月16日に開催した。また、緩和ケア研修は3月中に開催する予定。</p> <p>⑤学部の管理栄養士、理学療法士、臨床心理士、臨床工学技士、</p>

	<p>鍼灸師等、医療資格者等との連携により、患者への医療サービスの充実を図る。</p> <p><input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>理学療法士による定期訪問リハビリや、臨床工学技士による医療機器・医療ガスの安全使用研修会を実施した。今後はその他学科との連携を進めたい。</p> <p>⑥訪問看護ステーションの事業規模拡大の検討</p> <p><input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>事業規模拡大に向けて、常勤看護師を2名増員した。 また、スタッフの定着向上のため、訪問件数に対してのインセンティブ報酬として訪問手当を支給する処遇改善を行った。</p> <p>⑦新たな分野への発展の具体方策の検討</p> <p><input type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input checked="" type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>病院運営の安定化を優先したため現状維持。</p> <p>⑧国・県の地域医療構想推進支援策の研究</p> <p><input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>概ね順調に進んでいる。</p>
<p>4. 新学科等増設に伴う施設整備計画の検討及び実行</p>	<p>① 新学科増設に伴う必要スペース及び施設改修検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆既存スペースでの導入検討（2022年度実施） 白子：2号館改修による学科導入 ◆新增築での導入検討（2021年度～2023年度検討） 千代崎：テニスコートへの新增築検討 <p><input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>白子2号館改修により看護学科及び救急救命学科のスペース確保(7月完成) 千代崎の新增築は令和5年度（2023）以降への繰り越し</p>
<p>5. 計画的な施設整備による安全安心の環境確保</p>	<p>①中期施設整備計画からの老朽化施設整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆安全性、重要性、緊急性を考慮した老朽化施設の効率的な施設整備の実施 (2022年度実施の外壁、防水設備の改修) 千代崎：屋上防水外壁改修（1件）、トイレ改修（1件） 白子：トイレ改修（2件） (2023年度以降は中長期整備計画により順次実施) <p><input type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input checked="" type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>物価高騰を受け、緊急性の低い外壁、防水及びトイレ改修は、しばらく状況を見極めるため延期としたため大幅な遅れとしたが、一方老朽化緊急で修繕が必要となった空調機器（東洋医学研究所）、音響機器（薬学部）、価格上昇前に調達し前倒し実施したものもあり、臨機応変対応している。</p> <p>②法令改正等への遵守（耐震、防災等）</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆施設内における二次部材（特定天井）耐震対策の検討 (2027年度実施に向けた検討) 白子：講堂天井検討

	<p>◆現行法令に乗ったエレベーターの計画的更改 (2022年度、2023年度) 千代崎：エレベーター更改(2基)</p> <p>◆更なるバリアフリー化の検討 (2022年度実施) 千代崎：身障者駐車場整備 (2023年度以降実施に向けた検討) 白子：講堂段差バリアフリー化</p> <p>◆BCPを考慮した防災施設の検討 (2023年度以降構築に向けた検討) 千代崎：災害対策室設置検討</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 上記①と同様に物価高騰を受け状況を見極めるため同様の対応とした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・耐震場所の検討終了(4月) ・エレベーター改修工事の実施見直し(令和6年へ延期) ・バリアフリー化検討の実施時期見直し(令和6年以降へ延期) ・災害対策室の計画案作成(3月) <p>③地球環境を考慮した施策整備の実施</p> <p>◆照明(LED化)、高効率空調設備への更改によるエネルギー削減 (2022年度実施) 千代崎：管理棟及び廊下LED化(2件)、空調更改(3件) 白子：空調更改(1件) (2023年度以降LED化及び空調更改は中長期整備計画により順次実施)</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 千代崎：管理棟及び廊下LED化実施(9月完成) 空調更改2件実施(12、3月完成)、1件は令和6年度以降に延期 白子：空調更改1件実施(12月完成) その他：地球環境保護への取組みとして、9月1日から消費する電力は、「実質再生可能エネルギー100%」に変更。</p> <p>④魅力的な学習環境の構築</p> <p>◆ICTを考慮した講義室の整備 (2022年度実施) 千代崎：講義室整備(2室) (2023年度以降) 千代崎A講義棟講義室順次整備を実施</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 A講義棟講義室(3111、3211)整備実施(9月完成)</p>
--	--

第 1 - 2 期の活動計画の達成状況

重点分野 2 : 大学広報の強化と入学者受け入れの改善						
<p>【基本方針:5】 医療・福祉の総合大学化の完成と改組</p> <p>【基本方針:6】 新学部や附属病院の進展を検討</p> <p>【中期計画】2021年度-2026年度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 広報活動の強化および大学ブランド力を向上させる情報発信 2. 本学の強みや特色・教育・研究・社会貢献についてのパブリシティを高めるため、報道機関との連携強化 3. 学生募集体制の強化と選抜制度の見直し（全学部・全学科の定員充足） 4. ディプロマを明確にした広報活動の展開 5. 高大接続を意識した社会貢献活動の推進 						
<p>責任者: 森下芳孝（学生・社会貢献担当副学長） 分担者: 小山尚樹（入学課長）、辻 紀子（企画広報課長） 事務局: 入学課</p>						
	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
中期計画 1.	→					→
中期計画 2.	→					→
中期計画 3.	→					→
中期計画 4.	→					→
中期計画 5.	→					→
2022年度活動計画						
対応する中期計画項目	活動計画内容					
1. 広報活動の強化および大学ブランド力を向上させる情報発信	<p>① 広報内容について、各組織（学部学科）や部署との相互連携を図り情報収集と共有を行う。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 新着情報の発信や更新や載せ替えなど、日頃から他部署と情報共有し連携を図っている。 また、就職・キャリア支援課より情報提供を受け、取得可能な資格、就職支援、就職状況など学生へのサポート内容を更新し、ホームページに掲載している。在学生をはじめ、受験生や保護者などへ本学の就職・キャリア支援についての情報提供を行い、本学の取り組みについて広報した。</p> <p>② 大学の取り組み、教育や研究の成果、社会貢献活動などの内容を適切な媒体へ積極的に発信する。</p> <p>(1) 大学ホームページの充実化を図る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大学ホームページの管理運営、見直し改善 ・ 新着情報発信への迅速な対応 ・ What's new の情報更新（随時） <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p>					

上記達成状況の具体的内容

大学ホームページについては、改組による学科名称変更に係わる更新作業や新着情報の発信、情報公開など然るべきタイミングで実施した。管理運営については、経理課と管財課の新システムに伴う稼働のアシストや、シーズ集や教員評価システム等の統合にも迅速に対応した。

2022年度は、コロナ禍においても大学での学びや活動を止めないために、随所に配慮した対策を講じて取り組んでいる様子について発信した。大学や学部学科の取り組みについては、多職種連携教育の取り組み・学会発表・大学祭・市民公開講座の実施・学官連携の取り組み・産学共同開発などを取り上げた。またボランティア活動については、課外活動や学生主体でのラジオ放送、国際交流などを What's New や SUMS News で発信した。教育や研究の成果については、研究振興課と社会連携研究センターと協同で昨年度末に立ち上げた新しいサイトを活用し、随時公開している。研究の成果については、同課と同センターより情報提供を受け、大学ホームページの What's New や SUMS News にて発信した。

(2) 公式 SNS の運用を強化する

- ・ SNS の特性を活かしたコンテンツの検討と実施
(SNS 投稿目標値：前年度比+10%以上)
- ・ 友だち登録やフォローの促進方法の検討

■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)

上記達成状況の具体的内容

[公式 SNS の運用]

公式 SNS 配信数：計 63 件 (前年度比▲3 件)

▽内訳

・ LINE 投稿件数：22 件 (前年度比▲7 件、目標比▲10 件)

友達追加数：2,517 名 (2023.4.30 データ)

※前年度比+482 名、ブロック数を含む

・ Instagram 投稿件数：41 件 (前年度比+6 件、目標比+2 件)

フォロワー数：965 名 (2023.4.30 データ) ※前年度比+229 名

▽公式 LINE では、オープンキャンパスや入試情報、進学相談会など、受験に結び付く内容をメインに情報配信し、大学 HP や受験生応援サイトへ誘導することを目的としている。2021年度は、新型コロナウイルス感染者の拡大による進学相談会の中止や延期に関する情報発信が多数あったが、2022年度はその発信が無く、投稿数減少の大きな要因となった。

2023年度からは資料請求システム等と結びつけ、受験生がより利用しやすい環境を構築し、登録者数の増加を図る計画である。▽公式 Instagram では、キャンパスライフをイメージできるような内容を投稿している。受験生の関心が高い「クラブ・サークル」については在学生からの投稿を集め、在学生目線での紹介に注力している。また、キャンパス周辺マップの紹介など新しい視点からの投稿を増やし、目標値を達成した。

(3) 紙媒体、動画、交通広告、新聞、メディア広告などを利用した情報発信をする

- ・ 「SUMS News」の発行 (年 4 回発行)
- ・ 交通広告の利用
 - ◆ 駅看板のデザインリニューアル (2022 年 4 月掲出)
- ・ 新聞やメディア広告の有効的な利用
- ・ 大学紹介動画への内容追加の検討、見直し (2022 年 11 月)

■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)

	<p>上記達成状況の具体的内容 交通広告については、昨年度末に駅看板のデザイン変更を進め、2022年4月上旬にリニューアルが完了した。今後も近鉄主要駅への継続掲出で訴求効果を高めていく。 大学紹介動画については、救急救命学科の追加、医療栄養学科の改組に伴う内容変更、医療健康データサイエンス学科の専攻追加など修正を行った（2022年12月26日公開）。 新聞の記事体広告へは、中日新聞と朝日新聞の教育企画へ掲載し、広い読者層に向けてのPRを行った 他にも「SUMS News」を年4回発行し、大学の取り組みや学生の活動などを紹介している。</p> <p>③大学ポートレートへの継続参画を行う。 ・大学の教育情報に関する情報公開の充実を図る ◆一斉更新（2022年7月末）、以降新情報を随時更新 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 大学ポートレートは毎年7月に更新作業をして最新の情報公開を行っている。</p>
<p>2. 本学の強みや特色・教育・研究・社会貢献についてのパブリシティを高めるため、報道機関との連携強化</p>	<p>①パブリシティ機会の獲得に有効な情報発信に注力し、新聞・テレビ・ラジオなどマスメディアを利用したプレスリリースやプレス向けイベントなど広報活動を積極的に行う。 （プレスリリース目標値：前年度比+10%以上） ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 ・プレスリリース：計21件（前年度比+4件、目標比+2件） 上記に対する取材（51件）、告知掲載（24件） ・マスメディア掲載状況：計89件（前年度比+19件） 内訳：テレビ・ラジオ（23件）、新聞（55件）、雑誌他（11件） ・新聞広告／マスメディア協賛：計22件 内訳：テレビ・ラジオ（8件）、新聞（12件）、雑誌他（2件）</p> <p>マスメディア（新聞、テレビ、ラジオ）を利用した広告展開や、県内報道機関への本学の教育・研究・社会貢献活動などに関する情報発信を随時行った。 ウィズコロナを意識しながらの大学の取り組みなどを各メディアにご理解いただき、取材へと繋がるようプレスリリース内容にも留意し、大学PRへと繋げた。 マスメディアに対しては、プレスリリースを通して積極的に取材依頼を行った。新設の救急救命学科がスタートし、授業紹介や最新の資器材が整備されていることなどを発信し、取材へと結び付けた。他にもコロナ対策を講じての学びや活動が増え、企業との共同開発や取り組み、ボランティアやサークル活動など、前向きに取り組む学生の姿や声を発信した。また大学祭や市民公開講座の実施、学官連携の取り組みなど対外的な話題については、地域の方々の参加へ結び付くよう、各種媒体への告知掲載にも注力し情報発信した。</p> <p>②マスコミとの信頼関係を構築し、ネットワークを広げる。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 今後も県内報道機関とのコミュニケーションを大切にし、信頼関係の構築やマスメディアの興味を促す情報提供と、ニュースリリースのタイミングにも留意していく。</p>

<p>3. 学生募集体制の強化と選抜制度の見直し（全学部・全学科の定員充足）</p>	<p>①2022 年度入試において定員が未充足である学科（専攻）への広報活動の比重を高くする。特に薬学部の定員確保に向けた広報を強化する。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 薬学部教員による高校訪問を全面的に再開し、三重県、愛知県の実績校への広報活動を強化した。</p> <p>②早期により優秀な学生の確保を実現するため、総合型選抜及び、学校推薦型選抜の改善を進める。特に学校推薦型選抜における指定校枠の拡大と同枠への取り込み強化を行う。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input checked="" type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 早期の入学確保に向けて、総合型選抜及び、学校推薦型選抜の改善を進めてきた。ただし、受験生の年内傾向が予想より早く進み、対応が遅れた。2024 年度入試においては、抜本的な改善（全学部・学科への総合型選抜の導入・指定校推薦の出願基準の大幅緩和等）を予定している。</p> <p>③現状分析により、大学入学共通テストを利用する選抜方式の内容（利用方法・回数・選抜時期等）を見直す。 <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 大学入学共通テストの中期を廃止し、前期・後期の 2 期に集約した。</p> <p>④双方向の受験情報提供（一方的な発信ではなく、対話・相談型）を推進（既に、本学公式 FAQ にて 2021 年 5 月より実験運用開始） <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 本学公式 facebook において受験生・高校生教員・保護者向け受験情報配信と連動した「メールオンライン入試・入学相談」を拡大させた。</p> <p>⑤鈴鹿市との学官連携協定に基づいた看護師育成奨学金制度の効果的な運用に向けた連携強化により早期から意欲のある学生の入学を確保し、市内医療機関への看護師人材の確保、定着に貢献する。（3, 4 年生を対象に毎年 5 名学長推薦にて選出） <input type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input checked="" type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 選出者は2022年度4名（応募4名）。2023年度2名（応募2名）となっており、応募者全員が採用される結果となっている。今後告知方法の工夫など、定員枠を満たすための見直しが必要である。</p>
<p>4. ディプロマを明確にした広報活動の展開</p>	<p>①ディプロマから想定される各学科が入学前に求める具体的能力（高校での履修内容・レベル）を明確化する（アドミッションポリシーをより明瞭にし、入学後の学力不足の解消を目指す）。 <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 入試ガイド、ホームページに高校生向け内容として掲載し、周知の強化を図った。</p> <p>②卒業後の進路・資格をこれまで以上にアピールし医療・健康・福祉系大学としての、強みを全面に出した広報を展開する。一部学部（薬学部）では、仕事紹介 PV の制作を検討中</p>

	<p>である。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>三重大病院で本学卒業生の病院薬剤師の活動を紹介した受験生向け動画を作成し、8月以降本学ホームページ、YouTube 配信を実施。</p>
<p>5. 高大接続を意識した社会貢献活動の推進</p>	<p>①高大連携協定校との定期的な協議を行うと同時に、県内高校とのこれまで以上の連携強化を進める。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>連携協定校への定期的訪問を通じて、意見交換と情報提供を行うと同時に高田高校、鈴鹿高校、津田学園高校、四日市メリノール学院での校内進路ガイダンスの開催、本学への見学会・体験授業を実施。</p> <p>②新型コロナウイルス感染症の収束を見据え、各高校内で導入が増えている「学問探求活動」「キャリア教育」への医療系大学としてサポートを積極的に行い、本学の教育内容への理解を促進する。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>新型コロナにより、中止されていた高校内ガイダンスが再開され、医療分野別ガイダンスで本学各学科教員を派遣。(前年度より約40%増加)</p> <p>③本学において県内高校生を対象とした2つの全県イベント(科学オリンピック・みえ探求フォーラム)の開催・後援を進めることにより、意識の高い高校生(高校教員)の本学に対する認知度・理解度を深める。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>両イベントの開催を実現した。特に新型コロナの影響で2年間、WEB開催となっていた「みえ探求フォーラム」を本学で開催することができた。</p>

第 1 - 2 期の活動計画の達成状況

重点分野 3 : 教育内容の充実						
<p>【基本方針: 1】 面倒見の良い、魅力ある大学</p> <p>【中期計画】2021 年度-2026 年度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 修業年限内に全員卒業、国家試験や資格試験の全員合格に向けた「SUMS 方式学修支援方法（トコトンできるまで教育）」の樹立及び遂行とその検証 2. 数理・データサイエンス（統計学、数学、コンピュータサイエンス、人工知能）など今後の社会に必要とされる数理的思考やデータ分析・活用力を備えた人材を育成するカリキュラムの全学的編成とそれらを展開する教育体制の確立 3. 学修者の能動的な学修を支えるための学修支援システムの更なる拡充及び学修成果の可視化による学修者自身の自学自習や就職活動に有用な仕組みの構築 4. 医療人底力教育と多職種連携教育の拡充・発展のための全学的な視点に立つ学科・施設横断型カリキュラムの再構築とその実践 						
<p>責任者: 片山直之（教務・教育改革担当副学長） 分担者: 福田八寿絵（底力教育センター長）、田口博明（FD 推進委員長）、松永ひとみ（教務課長） 事務局: 教務課</p>						
	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度
中期計画 1.	SUMS 方式学修支援方法の樹立		SUMS 方式学修支援方法の遂行とその検証			→
中期計画 2.	数理・データサイエンスに関する人材育成カリキュラムを全学的に編成		数理・データサイエンスに関する人材育成カリキュラムを展開する教育体制の確立			→
中期計画 3.	学修支援システムの拡充と学修成果の可視化		学修者自身が自学自習や就職活動に学修支援システムを役立てる仕組みの構築			→
中期計画 4.	新設学科及び大学附属桜の森病院を加えた横断的カリキュラムの作成		新教育システムの再構築とその実践			
2022 年度活動計画						
対応する中期計画項目	活動計画内容					
1. 修業年限内に全員卒業、国家試験や資格試験の全員合格に向けた「SUMS 方式学修支援方法（トコトンできるまで教育）」の樹立及び遂行とその検証	<p>教育改革委員会、教育質保証委員会、教務委員会、FD 推進委員会の連携による学修者本位の教育の改善と各学科の教育の質向上を図る「SUMS 方式学修支援方法（トコトンできるまで教育）」の遂行</p> <p>① 本学教育の基本的方向性と具体的施策の立案とその実施</p> <p>◆教育改革委員会に加えて各学科及び全学共通分野の教育質保証委員会と連携し、学生の学力を担保しつつ、留年・休学・退学する学生を最大限に少なくする「SUMS 方式学修支援方法（トコトンできるまで教育）」の遂行に努める。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>教育改革委員会は、各学科の教育質保証委員会と連携し、修業年限内の進級率及び卒業率の向上のための面倒見の良い教育を目指し、特別教育を構築し、その実施した。各学科の教育質保証委員会から前期と後期に報告書が提出され、教育改革委員会はそれら</p>					

の報告書の内容について審議し、審議結果を各学科へ還元した。

◆教務委員会は、教育改革委員会の意向を具体化し、各学科との調整を図りながら、その実行に努める。

□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)

上記達成状況の具体的内容

教務委員会は、「留年ゼロ作戦」や「トコトンできるまで教育」を遂行するために、各学科との調整を図ることを継続し、効果として、退学率は、2017年度：3.03%、2018年度：3.52%、2019年度：2.24%、2020年度：1.97%、2021年度：2.03%と推移してきた。次年度以降も特別教育の流れを踏まえ、修学年限内の進級率と卒業率の100%を目指して、教育改革委員会と連携を図った。

② FD推進委員会による教員意識の改革と授業改善の取り組み

◆教員のコロナ禍及びコロナ禍後の新しい生活様式においても対応可能なICT (Information and Communication Technology) を活用した双方向型授業を含めた教育形態を推進する能力の向上を図るために、年2回以上のFD研修会・講習会を開催する。

■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)

上記達成状況の具体的内容

FD推進委員会は学内外のオンライン研修会等を以下のように開催し、教員の教育能力の向上を図った。また、ICTを活用した双方向型授業を含めた教育形態の更なる改革を推進するために、LMS研究部会では、2022年度に研究会を3回(通算14回)開催し、様々な事例紹介や外部講師による講演など企画した。その研究会資料や動画等は、learningBOX内に置き、全教員がいつでも活用できるように整備した。

- 2022年度 FD・SD講演会 Zoom開催 (参加者274名)
開催日時：2022年9月1日(木)13時30分～
 - ・『ニューノーマル時代の学生支援』
(演者)一ノ瀬 大一 氏
 - ・『あ、データサイエンスと医療健康分野は繋がっているんだ!』
(演者)鶴岡 信治 医療健康データサイエンス学科長
- 2022年度 第7回教育研究会 Zoom開催
開催日時：2022年3月18日(金)13時～(参加者210名)
- LMS研究会 Zoom開催
 - 第11回 2022年3月18日(金)9時30分～11時(109名)
 - 第12回 2022年6月16日(木)9時30分～11時(30名)
 - 第13回 2022年9月1日(木)9時30分～11時(127名)
 - 第14回 2023年1月11日(水)9時30分～11時(92名)
 - 第15回 2023年3月24日(金)9時30分～11時(90名)

◆学生による授業評価を教育改善に役立てるために、学生参画型のFD推進委員会を年1回以上開催する。

■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)

上記達成状況の具体的内容

FD推進委員会は教育改革委員会と連携し、学生による授業評価を教育改善に役立てるため、学生参画型のFD推進委員会を開催した。

- 2022年度学生参画教育改革委員会・FD推進委員会合同会議 Zoom開催
開催日時：2022年8月5日(金)13時30分～15時
出席者：学生11名(欠席1名)、教職員21名
議題：事前に行ったアンケートを基に以下の内容で議論した。
 1. 3つのポリシー等の教育目標から見て教育が適切に行われているかについて

	<p>2. 学生による授業評価をどのように教員の授業評価に結びつけるかについて</p> <p>3. 遠隔授業 (Zoom) および e-learning (learningBOX など) について</p> <p>4. 教育に関する改善点について</p> <p>◆本学 FD 活動を他の大学・短大等にも広報し、連携を図ることによって、授業改善の相乗効果を生み出すための教育・教務に関わる講演会を少なくとも年 1 回以上開催する。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>2022 年度「高等教育コンソーシアムみえ」FD・SD 活動事業の一環として、本学の以下の FD・SD 講演会を案内し Zoom 開催した。</p> <p>○ 2022 年度 FD/SD 合同研修会 開催日時：2022 年 9 月 21 日(水) 15:10~16:40 研修内容：「IR を活用した evidence に基づく教育改革を目指して」 学長 豊田 長康</p> <p>他の大学・短大等にも広報し、連携を図ることによる授業改善の相乗効果を生み出すための教育と教務に関わる講演会を開催し、学内 145 名、学外 45 名の 190 名が参加した。</p> <p>③ 学修支援システムの活用</p> <p>◆学科の専門性に合わせた基礎学力養成教育を意識したリメディアル教育を管理する組織を医療人底力教育センター内に設置し、その運営を図る。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>基礎学力養成教育を意識したリメディアル教育の実施を支援する組織を「医療人底力教育センター」内に設置し、2022 年度から本格的な運営がなされることになった。入学時にプレイズメントテストを実施した結果、基礎学力が不足している学生を抽出し、リメディアル教育を実施した。</p> <p>【リメディアル教育の履修者数】 2022 年度 129 人 (2021 年度 84 人、2020 年度 57 人) IR 推進室による分析結果や日頃の授業態度、さらに成績不振学生などのデータに基づいて、リメディアル担当教員による面談を実施するなど、教育体制の構築を図った。</p> <p>◆遠隔会議システム Zoom または動画などを利用した反転授業用教材を事前学習や事後学習に役立てるために、各学科あるいは全学共通分野において 1 科目以上での教材の作成とそれらの授業への導入に努める。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>事前学習や事後学習に役立てるために、遠隔会議システム Zoom または動画などを利用した反転授業用教材を作成し、learningBOX 内に動画が保存できるように、契約プランをアップした。LMS 研究部会を中心に、教材作成の支援体制を整備し、更に普及活動に努めていく。</p> <p>◆学修支援システムを用いた自学自習・演習の活用例を、learning BOX などを用いて作成し、各学科あるいは全学共通分野において 1 科目以上での導入に努める。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>learningBOX の利用率は、コンテンツ数やログを確認したところ全教員のうち、60%強という結果だったが、教員・学生ともに使</p>
--	---

	<p>易いと評判が高く、利用率が高まり、本学教員作成のコンテンツが着々と増加している。そのコンテンツを learningBOX 上で学内公開し、全教員がいつでも利用できる体制を構築した。更に LMS 研究部会を中心に普及活動に努め、学修支援に尽力し、学外公開も目指す。</p> <p>◆FD 推進委員会の下部組織として設置された LMS (Learning Management System) 研究部会では、授業改善への取り組みとして、教員のためのマニュアルの作成および授業改善の成功の具体的例示等を学修支援システムの活用に努める。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>2022 年度は、learningBOX 利用方法および教育改善取り組みの具体的な事例等について、LMS 研究会で紹介された上で、独自のマニュアルを作成し learningBOX 内に置くことによって、活用できる環境を整備した。FD 推進委員会が 2019 年から毎年、FD ハンドブックを発刊して配布しているが、2022 年度版においては例年掲載している「学生による授業評価学長表彰受賞者の取り組み例紹介」などに加え、「アウトカム重視の習熟度に応じた学修者本位の教育の実現へ(学長)」、「習熟度の低い学生に対する各学科の取り組み(各学科長)」など、本学において教育効果があると判断されるエビデンスを掲載し、習熟度に応じた教育手法を全教員が遂行するための授業形態や教材などの活用についても掲載し、極めて参考となる FD ハンドブックとなっている。2022 年度版を全教員へ配布し、FD 推進委員会委員長名で利用促進について learningBOX を用い、クイズ形式のアンケートで周知し、全教員の意識改革に努めた。また、learningBOX 内に FD ハンドブックの PDF ファイルを置くことにより、容易にハンドブックにアクセス出来る環境を整えた。</p>
<p>2. 数理・データサイエンス(統計学、数学、コンピュータサイエンス、人工知能)など今後の社会に必要とされる数理的思考やデータ分析・活用力を備えた人材を育成するカリキュラムの全学的編成とそれらを展開する教育体制の確立</p>	<p>数理・データサイエンス教育の始動に向けての教育体制の整備</p> <p>① 数理・データサイエンス教育の全学的な体制作り</p> <p>◆全学的な標準カリキュラムの設置を検討し、「数理・データサイエンス(統計学、数学、コンピュータサイエンス、人工知能)」など今後の社会に必要とされる数理的思考やデータ分析・活用能力を育成する科目の全学部での開講に努める。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>「数理・データサイエンス(統計学、数学、コンピュータサイエンス、人工知能)」など今後の社会に必要とされる数理的思考やデータ分析・活用能力を育成する科目として、2022 年度入学生カリキュラムに「医療人底力実践Ⅲ(データサイエンス)」を全学科・専攻の必修科目として組み入れた。e ラーニングシステム(learningBOX)を使用して、人間の集中学習時間(15分)に合わせたオリジナル動画(YouTube 動画)を 48 本(1 回分の授業に対して 6 本)作成し、学生が学習したいときに何度でも学習できるオンデマンド動画配信を行った。また、動画を十分理解しているかどうかを確認するための「理解度テスト」と「EXCEL を使用したデータの可視化レポート」を各授業の内容に合わせて作成し、Society5.0 を視野に入れ、学生一人ひとりの興味や関心を引き出すための多様な学びの場を提供し、数理・データサイエンス教育の向上に向けた自学自習の仕組みを構築して開講した。開講初年度 2022 年度は、履修学生数 686 名に対して、不合格者を 3 名(放棄)にすることができた。</p> <p>◆数理・データサイエンス・AI と社会とのつながりについて教えることができる教員の養成を目的とした FD 講演会を年 1 回実施する。</p>

	<p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 ○2022年度 SD 研修会 (コンソーシアム三重合同開催) 開催日時：2022年9月21日(水) 15:10~16:40 研修内容：「IR推進室の取組について」 IR推進室長でもある学長から、数理・データサイエンス・AIと社会とのつながりについて講演頂き145名の教職員が参加した。 ○2022年度 SD 講演会 開催日時：2022年9月1日(木) 15:15-15:55 研修内容：「あ、データサイエンスと医療健康分野はつながっているんだ！」医療健康データサイエンス学科長</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療健康データサイエンス学科の学科長から、社会状況の変化(文部科学省と各大学の対応) ・ なぜデータサイエンスを教える必要があるのか? ・ データサイエンスの教え方 ・ まとめ(教育方法のポイント)について <p>他大学の状況を説明し、本学のデータサイエンスの取組について講演された。この講演は学外者にもWeb公開し、他大学の教員も参加した。</p> <p>◆Society5.0を視野に入れ、学生一人ひとりの興味や関心を引き出すための多様な学びの場を目的とし、数理・データサイエンス教育の向上に向けた自学自習・演習の仕組みを継続して構築する。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 数理・データサイエンス教育の向上に向けた自学自習・演習の仕組みを構築した特徴的な教育の取り組みについて、教育改善提案として公募し、審査した結果、3件の学長賞が選ばれた。各内容について、教育研究会で発表された。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○『オリジナル短時間動画とeラーニングシステムを使用したオンデマンド教育』 ○『learningBoxの機能を用いたQ&A掲示板の活用』 ○『カードで学ぶ形態学グループ学習』
<p>3. 学修者の能動的な修学を支えるための学修支援システムの更なる拡充及び学修成果の可視化による学修者自身の自学自習や就職活動に有用な仕組みの構築</p>	<p>学修者本位の教育として、学生が「学修」する者としての責任と覚悟に気付き、能動的に学習できる体制を構築</p> <p>① 学修支援システムの拡充</p> <p>◆eラーニングを含めた学修支援システムを最大限に利用した自学自習・演習などを各学科独自あるいは全学共通分野の授業への普及に努める。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 learningBOXやSUMS-POなどの学修支援システムを利用した自学自習・演習用の教材を全学共通分野において、1科目以上の導入を目指し、達成した。</p> <p>◆教員が、SUMS-POを活用して学生の学修成果を共有できる仕組みの構築を企画する。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 SUMS-POの学修カルテ機能で学修成果とその到達度などについて、学生自身や保護者、そして教員がリアルタイムに確認できる環境が整備され、個別指導に活用している。</p> <p>② IR推進室による分析データの活用</p>

	<p>◆各学科・専攻の IR 担当教員が抽出した成績不振学生などのデータに基づいて、各学科・専攻の教育質保証委員会は教育改善及び指導体制について方針を立て、それらの実施に努める。特に、1年生早期のデータを参考に個別指導が必要な学生を抽出し、当該学生への継続的な支援を行うことができる方策を構築する。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>SUMS-PO の学修カルテ機能で学修成果とその到達度などについて、学生自身や保護者、そして教員がリアルタイムに確認できる体制が整備され、個別指導に活用できている。また、各学科・専攻の IR 担当教員が SAS システムを活用し、各学科の現状を把握し、情報を共有し、教育質保証委員会が担任教員を介して個別指導する体制を構築した。</p> <p>◆学生の学修時間の状況調査や意識調査の集計結果に関する情報を本学ホームページにて公表し、それらを活用できる体制の構築を図る。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>学生の学修時間の状況調査や意識調査について、IR 推進室による集計結果の情報を本学ホームページにて公表し、各種委員会の審議資料としても活用できる体制を整えた。</p> <p>③ 学修者本位の教育として、一人ひとりの学生が「何を学び、何を身に付けたのか」を評価検証する教育質保証を実践するための学生本人による学修ポートフォリオなど可視化された学修成果の確認と、その活用の考案</p> <p>◆下記の学修支援を組み合わせ活用する方法の活用を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学修ポートフォリオの充実による学生自身の成長の確認 ・ルーブリックの活用による評価尺度の標準化と可視化 ・カリキュラムマップを活用し、ディプロマ・ポリシーの到達に向けた確認 ・ディプロマサプリメントの交付による卒業時の学修成果の客観的な可視化 <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>一人ひとりの学生が「何を学び、何を身に付けたのか」を評価検証する教育質保証を実践するために、学修成果を正確に測定し、その成果を活かせる仕組みである「SUMS-PO の学修カルテ機能」を活用した。さらに、学修ポートフォリオを充実させ、学生自身が成長を確認できる仕組みを構築し、運用した。実験・実習の評価方法は、各学科がルーブリックを用いることで、評価内容を平準化した。また、カリキュラムマップを活用し、ディプロマ・ポリシー到達に向けた進捗を確認した。さらに、ディプロマサプリメントを交付し、卒業時の客観的な学修成果を可視化した。</p> <p>また、教育目標について、卒業時に学生による自己評価を調査し、その結果を本学ホームページに公表し、大学として教育成果を確認し、教育改善に繋げる仕組みを実行している。</p> <p>◆学生自身がディプロマ・ポリシーにどれくらい近づけたかを確認できることが、学修成果の可視化の目的であり、確認したデータに基づいて学生自身が入学後の自身の成長を知り、その後の学修計画に活用できる仕組みの活用を図る。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生の授業理解度を確認しながら、「身に付けた教育」を評価する仕組みを作り、達成度を重視した評価方法の整備を検討
--	---

	<p>し、learningBOX などを活用することで一定の方向性の目途は立ってきたが、本格稼働に至る仕組みを検討している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生の理解度に合わせた「よく分かる授業」、「身に付く授業」を実施するため、クリッカー等の使用環境を整備している。 ・演習・実習科目の評価方法、ルーブリック等の評価尺度の設定を各学科、2021 年度末までに 80%以上の科目で実施した。 <p>◆教育目標について、卒業時に学生による学習到達度の自己評価を調査し、その結果を本学ホームページに公表し、大学として教育成果を確認し、教育改善に繋げる仕組みの活用を図る。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>学修成果に係る自己評価調査を 2018 年度から実施しているが、90%近くの回答率を保っている。その結果を、本学 HP に公表し、各種委員会の審議資料にも含め、教育改善に繋げている検討に活用している。</p> <p>④ 卒業後アンケート調査結果等とそれらの活用</p> <p>◆卒業生の就職先等の進路先による調査を施行し、調査内容及び調査結果について公表するとともに、調査結果等を教育改善に反映させる体制の構築を企画する。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>2022 年度に実施した「卒業生・就職先に対するアンケート」の調査結果について、本学 HP へ公表するとともに、教育改革委員会、IR 推進室、FD 推進委員会、教務委員会において、教育改善につなげる検討を行った。その一つに、ハラスメントに繋がりがかねない教員が学生に対して避けるべき発言について、[FD ハンドブック 2023 に、注意事項として掲載してはどうかとの提案がなされ、事例等を募り、掲載した。</p>
<p>4. 医療人底力教育と多職種連携教育の拡充・発展のための全学的な視点に立つ学科・施設横断型のカリキュラムの再構築とその実践</p>	<p>入学前教育、初年次教育、専門教育の連携の強化により、専門教育の土台となる知識・技能・態度を総合的に涵養する教育体制の整備</p> <p>① 医療人底力教育の再構築</p> <p>◆総合的な授業編成が特徴である医療人底力教育は、特に 1 年生の「医療人底力実践」を全学必修科目とし、学科横断型の思考方法を身につけさせることを目指している。また、医療・福祉系総合大学である本学の特色を活かし、多様性のあるカリキュラムを 4 年間一貫教育として実施している。2022 年度設置される新設学科(救急救命学科)や 2021 年開設された大学附属桜の森病院との協力体制を図る統合的カリキュラムを企画し、その遂行に努める。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>2022 年度は医療人底力教育を概ね対面で実施することができ、学科間の交流を図り、チーム意識を高めることができた。教科書をもとに学生が予習・復習し、教員も教科書に沿って指導することができ、教員間の指導内容や、指導及び評価方法の標準化が図れた。また、2022 年度設置された救急救命学科や 2021 年開設された大学附属桜の森病院および桜の森白子ホームとの連携と協力体制を図る統合的カリキュラムを見直し、2022 年度も一部カリキュラムを変更するなど、教育改善を行った。</p> <p>・2022 年度にも桜の森病院長による特別講義と桜の森白子ホーム施設長による講演を底力実践Ⅱ体験プログラムにおいて実施した。</p> <p>○ 2022 年度 桜の森病院長 による特別講義 開催日時 2022 年 7 月 28 日 (木) 15 時 10 分～ Zoom 開催</p>

演題：桜の森病院における緩和ケアについて

- 2022 年度 桜の森白子ホーム施設長による講演
開催日時 2023 年 1 月 12 日（木）17 時 5 分～Zoom 開催
演題 桜の森白子ホームの施設の紹介とボランティア、地域包括ケア、地域福祉

◆実社会の課題解決に生かせる能力を養うため、底力教育に数理・データサイエンスの要素も組み入れ、専門分野横断的な STEAM 教育の実施に努める。

■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)

上記達成状況の具体的内容

全学科横断教育の必修科目として「医療人底力実践Ⅲデータサイエンス」を追加し、更にDX化を意識したオンライン開講を継続する科目について、学科等で教育効果があると判断して選定された場合は、2022 年度も更なる充実と推進に努めることとした。医療人の基礎知識科目はリアルタイムの遠隔授業として実施し、learningBOX で小テスト、定期試験を実施した。
2022 年度データサイエンス授業はオンライン講義として問題なく実施されたことが確認された。

② 高いレベルの学力と総合力を培うための教育

◆上級生向け実践的応用編である「多職種連携教育」を充実させ、大学附属桜の森病院と連携し、社会の求める高いレベルの医療人教育の実施を図る（緩和ケア実習検討部会の開催など）。

■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)

上記達成状況の具体的内容

4 年次において、複数学科の学生がチームを組み、地域の病院、老健施設、訪問看護ステーション、地域包括ケアセンター等で「医療人底力実践（応用）」を行い、2022 年 10 月 22 日（土）午前 11：10 から学生による報告会では、その成果を確認できた。
3 年次において、「医療人底力実践（展開）」を遠隔で実施し、多職種連携教育（チーム医療教育）に質の高い教育を担保したプログラムを構築し、約 60 名前後の履修学生数を維持している。
（2019 年度：45 名、2020 年度：47 名、2021 年度：60 名、2022 年度：75 名）
2 年次において、平成 29 年度より始まった三重大学医学部との共同授業「慢性疼痛チーム医療者養成プログラム」の授業を感染症拡大防止のために遠隔で実施した。満足度アンケートでは 113 人中 113 人が満足・やや満足と回答しており、多職種連携教育を推進できた。4 回目通算 138 名の修了者を出しており、今後も三重大学と協力し継続する方向で進めている。

◆現在実施中の事例と実践で学ぶ多職種連携教育を各学科・専攻の専門性を生かせるような内容へと進化させ、全学科の学生が履修可能な体制を整備することで、医療人としての総合力を養う一貫教育の実施を図る。

■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)

上記達成状況の具体的内容

事例と実践で学ぶ多職種連携教育は、コロナ禍であるにも拘らず、質の高い教育を遂行できた。2023 年度も附属施設での実習を予定しており、今後も実質的活動を推進していく。

◆新設学科や桜の森病院との連携を含め、本学独自の魅力ある教育改善策の遂行を図る。

□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)

上記達成状況の具体的内容

大学附属桜の森病院の開設に合わせ、各学科の実習内容に合わせ

	<p>実習病院として活用できるように、企画・検討する目的で、緩和ケア実習検討部会を組織したが、コロナ禍で実習が中止となり、十分な活動ができなかった。継続して教育改善策の遂行を図る。</p> <p>③ 資格試験を意識した入学前教育、初年次教育、専門教育システムの連携協力体制の再構築とその実践</p> <p>◆新入生プレースメントテストの見直しを行い、基礎学力の不足する学生を一層早期に発見・抽出し、各学科と連携したケアと各学科の専門教育充実につながる初年次リメディアル教育の実施を図る。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>2022年度は、新入生のプレースメントテストを learningBOX で実施できるよう、また、国家試験の出題範囲も確認し、見直しを行った。基礎学力の不足する学生に対してリメディアル教育、個別面談を実施した。</p> <p>各学科や学年の学習内容に対応した国家試験対策プログラムを教育質保証委員会が実施し、その実施状況を国試対策委員会においても管理している。国家試験対策等として CBT 教育センターの設置について今後も引き続き検討していく。これまでは、薬学科のみ修業年限内合格率を毎年算出してきたが、2021年度から全学科別に数値化し、運営協議会の中で情報共有した。今後も検証し、国家試験・資格試験全員合格を目指していく。</p> <p>特に習熟度の遅い学生を早期に発見し、学修支援に取り組むための体制づくりとしてプロジェクトチームを立ち上げ、IR 推進室が分析したデータに基づいて、リメディアル教育の見直し検討をしていく。また、learningBOX などを活用し、個別指導が必要な学生を抽出し、継続的な学修支援を行っていく。</p>
--	--

第 1 - 2 期の活動計画の達成状況

重点分野 4 : 学生支援の強化						
<p>【基本方針: 1】 面倒見の良い、魅力ある大学</p> <p>【中期計画】2021 年度-2026 年度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 国家試験の標準修業年限内合格率 100%を目指し、きめ細かい指導方法の確立と実施。 2. 就職率 100%を目指し、医療機関に加え就職先として民間企業への就職支援の充実。 3. 学生アンケート調査結果も踏まえ学生支援体制を強化し、面倒見の良い大学を実践する。 4. 学友会やクラブ活動・ボランティア活動を支援し、チームワークや自主性を育てる 						
<p>責任者: 森下芳孝 (学生・社会貢献担当副学長)</p> <p>分担者: 岩崎泰正 (健康管理センター長)、大井一弥 (国家試験対策委員会副委員長)</p> <p>綾野真理 (学生相談室室長)、宮崎和裕 (就職・キャリア支援課長)、勝田能成 (学生課長)、 田中宏治 (白子学生・就職課長)</p> <p>事務局: 学生課</p>						
	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度
中期計画 1.	—					→
中期計画 2.	—					→
中期計画 3.	—					→
中期計画 4.	—					→
2022 年度活動計画						
対応する中期計画項目	活動計画内容					
1. 国家試験の標準修業年限内合格率 100%を目指し、きめ細かい指導方法の確立と実施	<p>① 本学の教育理念である「知性と人間性を兼ね備えた医療・福祉スペシャリストの育成」を実践し、教育体制構築に向けて取り組む。目標達成に必要な行動計画の企画立案と施策実施をする。</p> <p>◆ 計画の達成状況については各担当教職員で構成される国家試験対策委員会で課題共有や有益な施策共有など達成状況を把握し課題解決に取り組む。</p> <p>□ 達成(100%) ■ ほぼ達成(実行中・80%) □ 遅れ有(50%) □ 大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>国家試験対策委員会は、2022 年度中、第 1 回 6 月 14 日、第 2 回 8 月 29 日、第 3 回 11 月 25 日、第 4 回 3 月 15 日と開催されており、各学科・専攻における国家試験への計画や取り組み方について情報の共有を行い、他学科への指導方法等についても提案したが、実際に取り組み方に課題が生じた学科があった。</p>					
2. 就職率 100%を目指し、医療機関に加え就職先として民間企業への就職支援の充実	<p>① 卒業後の進学・就職支援体制構築に向けて就職希望者に対しての就職率 100%を目標とする。</p> <p>目標達成に必要な行動計画の企画立案と支援体制を整え、各学科・専攻の就職担当教員と情報を共有しつつ相互によるサポートを実施していく。</p> <p>◆ 就職支援の取り組みとして、学科単位で開催する年間就職ガイダンスに加え、進路就職相談の個別対応については対面方式の</p>					

	<p>対応と WEB による遠隔オンライン方式を活用して対応していく。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 目標の 100%には未達であるが、就職希望者における就職率は 95 % を超えることとなり (昨年度 93.2 %)、各学科の取り組みの効果が表れている。 就職支援について、学外実習中の学生に対するガイダンスや個別対応など Web による対応をした。</p> <p>②薬学部 5 年次生を対象とした学内合同企業説明会の実施 病院・薬局・製薬メーカー・官公庁など幅広い業界の法人様に参加いただき、オンライン等を活用して情報発信を行う。 <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 2023年3月5日(日)に60団体(病院・企業・公共団体)参加の学内合同企業説明会を実施。</p> <p>③薬学部 1～6 年次生を対象とした学内個別企業説明会の実施 薬剤師が活躍できる業界を知り、目指す薬剤師に対する意識向上に繋げることを目標とし、オンライン等を活用して企業研究の場とする。 <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 年間を通じて、16の病院・薬局に参加していただき、個別の説明会を実施しました。</p> <p>④看護学部 1～3 年次生を対象としたマナー講座の実施 低学年からマナーに対する意識付けをし、実習において実践することで、医療人としてのマナーを身に付ける。 <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 2年生は8月3日(水)、3年生は7月28日(木)に実施済み。 1年生に関しては2月10日(金)に実施。</p> <p>⑤看護学部 3 年生を対象とした三重県厚生農業協同組合連合会の病院説明会の実施。 就職ガイダンスの一環として、病院研究を目的とし JA 三重厚生連に所属する病院の看護部長及び卒業生による病院説明会を実施する。三重県の病院への就職率を向上させる。 <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 12月22日(木)に看護学部3年生を対象として実施済み。</p>
<p>3. 学生アンケート調査結果も踏まえ学生支援体制を強化し、面倒見の良い大学を実践する</p>	<p>【学生課】</p> <p>①学生から汲み上げた意見・要望を実際の学生支援に反映させていく。 ・学生の満足度を経年で比較・評価できる指標を用いて、学生満足度調査を実施する。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input checked="" type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 学生の満足度を経年で比較・評価することを目的に、現在 それらを調査するための質問内容の選定を行っている。</p> <p>・在学生アンケートを実施する。(意見・要望の集約)</p>

	<p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 5月27日開催の学生総会で、「大学への要望」・「設置してほしい設備等」について、在学生を対象に対面及び、WEBで意見聴取を行った。</p> <p>・卒業生アンケートを実施する。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 本学ホームページ内に卒業生アンケートフォームを設置し実施。なお、回答率を上げるため、同窓会報でもアンケートの協力をを行った。</p> <p>・学友会組織との意見交換会を実施する。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 学生総会時に聴取した在学生からの意見を取りまとめた上で、6月30日に学友会顧問(副学長)・学生課と学友会執行部員との懇談会を実施。</p> <p>・学長と学生との意見交換会を実施する。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 学長と学友会執行部員＋一般学生の意見交換会を、10月7日と12日の2回実施した。</p> <p>②福利厚生施設、学内環境の充実</p> <p>・あいさつ運動及び、通学路における交通指導の実施</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 前・後期を通して、教職協働により「あいさつ運動及び、通学路における交通指導」を実施した。</p> <p>・学生食堂・売店との意見交換会を実施する。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 学友会顧問(副学長)・学生課と委託給食会社の社長・部長・料理長が意見交換を行い、在学生から聴取した学生食堂・売店への要望を伝えた上で協議を行った。</p> <p>・障がい学生に対応した学内環境を整備する。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 学生からの申請に伴って障がい学生支援委員会を開催し、そこで協議された支援決定書に基づいて学内の環境整備を行った。</p> <p>【健康管理センター】</p> <p>③健康診断を円滑に実施し、学生の健康状態のスクリーニングを行い、所見のある学生には保健指導や再検査の実施及び、必要な際には医療機関を紹介し、健やかに大学生活を送れるよう支援を行う。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記進捗状況の具体的内容 2022年度の学生健康診断について、2月4日(土)、3月31日(木)、4月1日(金)、4月2日(土)、4月5日(火)、4月9日(土)、</p>
--	---

	<p>4月10日(日)、4月16日(土)、11月26日(土)、全9日間の日程で全学生を対象に実施し、すべて円滑に終了した。健康診断結果で所見のあった学生へは、健康管理センターよりSUMS-POメールにて呼び出しを行い、再検査を行った。また、医療機関の受診が必要な学生に対しては、受診勧告を行い、受診結果について報告を求めた。</p> <p>その結果、再検査を行った学生のうち9割以上は、再検査では正常値であった。残りの学生は疾患等のためすでに通院治療中であった。</p> <p>しかし、再検査の呼び出しを行っても、来室しない学生が3割程度いるため、今後の課題としては、呼び出し回数を増やすことや、一斉メール後に来室しない学生へは、個別連絡を行うことを検討している。</p> <p>④全学部生を対象にUPI(精神的健康度調査)を実施し、こころに問題を抱えていると思われる学生の早期発見及び、学生相談室と連携して面談を行う等、精神的な面へのサポートを行う。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記進捗状況の具体的内容 学生健康診断時にUPIを実施し、回収率は100%であった。健康管理センターにて、マークシートの採点を行い、心に問題を抱えていると思われる学生については、対象者を抽出し、学生相談室へ情報の共有を行った。</p> <p>その後、心に問題を抱えている学生に対しては、学生相談室より呼び出しを行い、面談を実施している。</p> <p>⑤メンタルヘルス上の悩みや問題を抱えている学生に対して、学生相談室の予約等、迅速な判断と対応を行う。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記進捗状況の具体的内容 健康管理センターへ悩み相談のため来室した学生のうち、専門家による面談が必要と判断した学生に対しては、学生相談室へ繋ぐなど、迅速な対応を行った。</p> <p>⑥感染症の予防及び、修学に必要な抗体検査(麻疹・風疹・水痘・流行性耳下腺炎、B型肝炎、C型肝炎)を円滑に実施する。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記進捗状況の具体的内容 入学時(4月)の学生健康診断時に、新入生および編入生に対して、抗体検査を実施し、すべて完了した。</p> <p>⑦抗体検査の結果、基準値を満たさない学生には、学外実習における感染のリスクを予防するため、ワクチン接種の勧告を行う。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記進捗状況の具体的内容 抗体検査の結果、抗体価が基準値を満たしておらず予防接種が必要な学生には、6月頃に健康管理センターより全対象者へ予防接種が必要な旨、連絡を行った。</p> <p>学生は、各自、学外実習がはじまる前までに必要な予防接種を済ませ、すべて完了したら医療機関で記入してもらった「ワクチン接種証明書」を、健康管理センターへ提出することとなっている。</p> <p>⑧新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、必要な学生に対して抗原検査を実施する。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記進捗状況の具体的内容</p>
--	---

	<p>学外実習へ行くにあたり、先方（受入れ施設）より新型コロナウイルス感染症について抗原検査が必要との指示があった学生については、健康管理センターにて抗原検査の実施、または抗原検査キットの配布を行った。</p> <p>【健康管理センター・白子保健室】</p> <p>⑨各々の施設が管轄する学生に対し、病気やケガなど健康上の問題点への迅速な対応、ならびに適切な処置を行う。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記進捗状況の具体的内容 病気やケガで学生が来室した際には、その都度、適切な処置を行い、必要な場合には医療機関の紹介や、場合によっては搬送を行った。</p> <p>【学生相談室】</p> <p>⑩学生相談体制の向上（前年度の分析結果をもとに行う）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前年度に引き続き、学生の多様なニーズに対応するため、従来の対面方式による相談だけでなく、それ以外の方法（メール、電話、Zoom 等による遠隔の相談）を活用し、相談活動を行う。 <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記進捗状況の具体的内容 対面、遠隔（メール、電話、zoom）の多様な方法を用いて相談を実施している。特に通学自体が負担になっている学生からは遠隔相談の希望があった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員と連携しつつ、メンタル不調を来している学生の早期発見、早期対応に努める。 <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記進捗状況の具体的内容 学生のメンタルヘルスに関するスクリーニングテスト（UPI）結果を守秘義務に配慮しつつ各学科教員と共有した。UPI 後のハイリスク学生への個人面談を実施し、必要に応じて、各学科教員、学生課・教務課等と情報共有を実施したり、コンサルテーションを行ったりした。</p> <p>未達成の 20%については、個人面談対象学生の中で呼び出しに応じない者が特に、2 年生以上を中心に一定数あり、その中にはメンタル不調や不適應のために休・退学に至る場合もあった。学科の協力も得ながら、未来談学生への呼びかけを強化し、来談率を上げる予定である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員を対象に学生指導に役立つ情報の発信を行うと共に、メンタル面に問題を抱える学生への早期介入を行い、留年、不本意な休学・退学に陥る学生の減少を目指し、教職員との連携強化を図る。 <p>□達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) ■遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記進捗状況の具体的内容 来談学生数の増加、問題の複雑化・長期化による相談対応業務の増加、学生相談室担当教員の学務負担の増加などから情報発信のための業務を行う余裕がなかった。学生相談室の業務全体を見直し、効率化を図り、作業時間を確保したい。</p> <p>【医療栄養学科】</p> <p>⑪学生への栄養及び、食生活指導による健康管理への介入</p>
--	---

	<ul style="list-style-type: none"> 健康診断の結果から栄養不良（低栄養及び過栄養等）の状態に該当する学生への栄養相談及び、指導体制の充実 <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記進捗状況の具体的内容</p> <p>年度末に担当者が、健康診断の結果から栄養不良（痩せ及び肥満、BMI 参照）に該当する学生に対し、サマスポを活用して、栄養相談の案内を送り、栄養相談を実施した。今後は、更にサマスポ等を利用し、栄養相談の案内回数を増やしていくことを検討中である。</p> <ul style="list-style-type: none"> 上記に該当する学生への継続的な栄養相談及び指導体制の充実 <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記進捗状況の具体的内容</p> <p>上記の該当学生に対し、サマスポを活用して栄養相談を実施した。コロナ感染の状況により、安定した大学生活の把握が困難であった。今後は、比較的、場所や時間に制限されにくいサマスポやメール等の媒体を活用し、継続的な栄養相談を実施していくことを検討中である。</p>
<p>4. 学友会やクラブ活動・ボランティア活動を支援し、チームワークや自主性を育てる</p>	<p>①学友会、クラブ・サークル活動を支援する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 学友会組織の継続的支援を行う。 クラブ・サークル活動の継続的支援を行う。 課外活動時の感染症対策等をルール化し、参加者が安心して取り組めるよう支援を行う。 <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>必要に応じて学友会会議・クラブサークル委員会等を開催し、各学生団体の活動支援を行った。また、定められた感染症予防対策ガイドラインに沿った活動を行うよう年間を通じて指導を行った。</p> <p>②SUMS ポイント制度の周知及び、取得促進に向けた取り組みを実施する。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>SUMS ポイントは従来申請主義により取り扱っているが、行事終了後には申請するよう積極的に促すことで認知度も高まり、申請数がかかなり増加傾向にある。</p> <p>③学生のボランティア活動への積極的参加を促す取り組みを実施する。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記進捗状況の具体的内容</p> <p>ボランティア委員会の各委員より学生への参加呼び掛けを積極的に行った。</p> <p>④学生・教職員が積極的に社会貢献・地域貢献活動へ参加できるよう支援する。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記進捗状況の具体的内容</p> <p>各学科のボランティア委員とボランティア学生、職員とボランティア学生で6月～3月までに毎月1回（計10回）の学外清掃を実施し、総数204名の参加者による活動ができた。</p>

	<p>④学生・教職員が積極的に社会貢献・地域貢献活動へ参加できるよう支援する。</p> <p><input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>各学科のボランティア委員とボランティア学生、職員とボランティア学生で12月までに毎月(第3木曜日)計7回、学外清掃を実施し、約200名の参加者による活動ができた。</p>
--	---

第 1 - 2 期の活動計画の達成状況

重点分野 5 : 教職員の育成と人材確保																		
<p>【基本方針:4】 教職員の資質向上</p> <p>【中期計画】2021 年度-2026 年度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. SD 研修会の実施や各種外部研修会の参加により、事務職員全体および大学執行部の教員の大学運営に必要な能力の向上を図る仕組みづくりを構築する。 2. 教職員評価において、教職員個々が業務遂行のための目標設定を行い、その目標を達成させるための仕組みづくりを検討する。 3. 他の大学等と協同で、FD/SD 研修会を定期的に開催する。 																		
<p>責任者: 豊田学長 分担者: 鈴木秀幸 (法人事務局長)、村田尚久 (大学事務局長)、矢田智樹 (人事・厚生課長) 事務局: 人事・厚生課</p>																		
	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度												
中期計画 1.	—					→												
中期計画 2.	—					→												
中期計画 3.	—					→												
2022 年度活動計画																		
対応する中期計画項目	活動計画内容																	
<p>1. SD 研修会の実施や各種外部研修会の参加により、事務職員全体および大学執行部の教員の大学運営に必要な能力の向上を図る仕組みづくりを構築する。</p>	<p>SD 推進に係る基本方針及び年次計画を策定し、教職員の資質向上に必要な研修を計画的に実施する。</p> <p>1. SD 推進に係る基本方針 建学の精神と教育の理念に基づき、その使命・目的を達成するため、適切かつ効率的な大学運営を図るために必要な知識・スキルを身に付け、能力及び資質を向上させるための研修等を実施し、職員一人ひとりを育成する。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 SD 推進に係る基本方針について、1.に記載の通り作成済。</p> <p>2. 年次計画 (1) 本学または連携大学が主催する研修</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 70%;">研修項目</th> <th style="width: 30%;">受講計画者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①コンプライアンス等のテーマ別 SD 研修会 (年 4 回)</td> <td style="text-align: center;">200 名/1 回</td> </tr> <tr> <td>②連携大学との共同 FD/SD 研修会 (年 2 回)</td> <td style="text-align: center;">60 名/1 回</td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 本学以外の機関または団体が主催する研修等への派遣</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 70%;">研修項目</th> <th style="width: 30%;">延べ受講計画者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①階層別などにより体系的に実施される外部機関または団体主催による集合研修</td> <td style="text-align: center;">20 名</td> </tr> <tr> <td>②業務内容や職種に応じた必要な専門知識を習得するためのゼミナール、講演会、研修などの実務研修</td> <td style="text-align: center;">100 名</td> </tr> </tbody> </table>						研修項目	受講計画者数	①コンプライアンス等のテーマ別 SD 研修会 (年 4 回)	200 名/1 回	②連携大学との共同 FD/SD 研修会 (年 2 回)	60 名/1 回	研修項目	延べ受講計画者数	①階層別などにより体系的に実施される外部機関または団体主催による集合研修	20 名	②業務内容や職種に応じた必要な専門知識を習得するためのゼミナール、講演会、研修などの実務研修	100 名
研修項目	受講計画者数																	
①コンプライアンス等のテーマ別 SD 研修会 (年 4 回)	200 名/1 回																	
②連携大学との共同 FD/SD 研修会 (年 2 回)	60 名/1 回																	
研修項目	延べ受講計画者数																	
①階層別などにより体系的に実施される外部機関または団体主催による集合研修	20 名																	
②業務内容や職種に応じた必要な専門知識を習得するためのゼミナール、講演会、研修などの実務研修	100 名																	

(3)OJT の継続実施

経験豊富な職場の上司や先輩が、職場での実践を通じて若手職員や後輩を計画的に指導・教育、自己啓発の勧奨に取り組み、業務知識等を習得させ育成する。

□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)

上記達成状況の具体的内容

本学または連携大学が主催する研修会に、以下の通り教職員を参加させることができた。

また、本学以外の機関または団体が主催する研修会などに、延べ49人の職員が参加した。

本学以外の研修等の参加については、次年度に改善しなければならない点もあるが、SD推進に係る年次計画は、ほぼ達成できたと考える。

令和4年度研修会一覧

研修項目	受講者数
<p>①コンプライアンス等のテーマ別SD研修会</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和4年度公的研究費の運営・管理に関わるコンプライアンス教育 令和4年度公的研究費の運営・管理に関わるコンプライアンス教育について 鈴鹿医療科学大学 大学事務局長・コンプライアンス推進責任者 村田尚久氏 令和4年度FSD講演会 ニューノーマル時代の学生支援-教学IRデータに基づく中退予防策を中心に- 九州産業大学 係長 一ノ瀬大一氏 令和4年度SD研修会 個人情報保護研修～情報漏えいの事例、原因及び対策等～ 野口&パートナーズ法律事務所 弁護士 近藤秀一氏 令和4年度教職員全体研修会 ハラスメント防止研修-ハラスメントをジブンゴトとして考える- 名古屋大学ハラスメント相談センター 相談員 内川菜月氏 	<p>教員128名 職員15名</p> <p>教員196名 職員44名</p> <p>教員144名 職員57名</p> <p>教員216名 職員62名</p>
<p>②連携大学との共同FD/SD研修会</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和4年度高等教育コンソーシアムみえFSD合同研修会 IRを活用したEvidenceに基づく教育改革を目指して 鈴鹿医療科学大学 学長 豊田長康氏 令和4年度私学連携協議会みえFSD研修会 地方大学の新たな選択肢～これからの魅力ある地方大学とは～ リクルート進学総研所長・リクルート「カレッジマネジメ ント」編集長 小林 浩氏 	<p>教員81名 職員51名</p> <p>教員7名 職員37名</p>

2. 教職員評価において、教職員個々が業務遂行のための目標設定を行い、その目標を達成させるための仕組みづくりを検討する

・教員評価について、現在の評価方法の内容・方針について検証し、改善を提案、実行し、その結果を検証する。

■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)

上記達成状況の具体的内容

教育研究活動評価委員会を開催し、現在の評価方法について検証

	<p>し、改善案をとりまとめた。改善案を学長・副学長ミーティングにて検討し、評価項目の修正を行った。た。次年度の評価に反映し、更に仕組みの質向上を目指していく。</p> <p>・事務職員の人事考課について、現在の評価方法について検証し、改善を提案する。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>現在の評価方法については、特に問題なく運用されているため、引き続き評価方法の検証を行っていく。</p>
<p>3. 他の大学等と協同で、FD/SD 研修会を定期的 開催する</p>	<p>私学連携協議会やコンソーシアムにおいて開催される研修会に積極的に参加する。</p> <p>また、他大学との連携、情報共有を図ることにより、各機関で開催される研修会に教職員を参加させる。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>連携大学と共同で行われる研修会や、情報共有された研修会に、教職員を積極的に参加させることが出来た。</p>

第 1 - 2 期の活動計画の達成状況

重点分野 6 : 研究活動の活性化を通じた社会貢献						
<p>【基本方針:3】 本学の特色を生かした研究を通じての社会貢献</p> <p>【中期計画】2021 年度-2026 年度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 西洋医学と東洋医学の知識と技術（代替医療）を融合した統合医療研究を推進するための研究活動への資源配分 2. 地域医療に貢献できる独創的な研究を進めるための研究環境の整備 3. 学内研究の推進と研究指導者の育成 4. 研究活動推進のための外部資金の獲得 5. 研究倫理の確立と厳正な運用 6. 産学官連携研究活動の推進 						
<p>責任者:鈴木宏治（大学院・研究担当副学長、社会連携研究センター長） 分担者:太田伸生（医療科学研究科長）、飯田靖彦（薬学研究科長）、長谷川誠仁（大学院課長）、真弓 昭（研究振興課長） 事務局:大学院課、研究振興課</p>						
	2021 年 度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度
中期計画 1.	→					→
中期計画 2.	→					→
中期計画 3.	→					→
中期計画 4.	→					→
中期計画 5.	→					→
中期計画 6.	→					→
2022 年度活動計画						
対応する中期計画項目	活動計画内容					
1. 西洋医学と東洋医学の知識と技術（代替医療）を融合した統合医療研究を推進するための研究活動への資源配分	<p>①SUMS 学科横断的共同研究の推進【研実】 ◆学部・学科横断的な共同研究への研究費助成を行う。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 2021 年 10—12 月に公募し、応募した 3 課題について研究実施委員会及び社会連携研究センター運営委員会委員による評価に基づき、2022 年 3 月の運営協議会で審議し、下記の 3 課題が助成対象として採択された。</p> <p>1) 研究代表者：川ノ口 潤（保健衛生学部・鍼灸サイエンス学科（兼東洋医学研究所）・准教授） 研究課題：高齢化社会に向けた加齢による身体能力と精神の減弱に対する鍼灸治療とタウリン摂取による抑制効果の検討 研究期間：2022 年 4 月～2023 年 3 月 助成金：1,000 千円</p>					

	<p>2) 研究代表者：藤原芳朗（保健衛生学部・医療福祉学科・教授） 研究課題：介護保険からの卒業（自立）者への地域支援事業評価—桑名市介護予防室と連携して— 研究期間：2022年4月～2023年3月 助成金：500千円</p> <p>3) 研究代表者：山下幸司（医用工学部・医用情報工学科・准教授） 研究課題：WHO国際統計分類に基づく情報と痛みの関連データ収集・表示基盤の構築 研究期間：2022年4月～2023年3月 助成金：500千円</p> <p>◆採択された研究課題はホームページに掲載する。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 前項の助成対象研究課題については、ホームページに掲載した。</p> <p>◆学部・学科横断的共同研究支援事業の問題点を改善し、内容の充実を図る。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 2022年10月に第1回研究助成についての課題を調査したが、特段の問題はなかった。 2023年度第2回研究費助成に向けて課題の公募と選考が行われ、3課題が採択された。</p> <p>1) 研究代表者：大井 一弥（薬学部・薬学科・教授） 研究課題：抗がん薬であるイリノテカン投与による色素沈着発現に対する基礎と臨床の融合研究 研究期間：2023年4月～2024年3月 助成金：750千円</p> <p>2) 研究代表者：三輪 高市（薬学部・薬学科・教授） 研究課題：高血糖負荷による中枢神経機能障害への影響とその改善のためのメカニズムの解明 研究期間：2023年4月～2024年3月 助成金：750千円</p> <p>3) 研究代表者：森 尚義（薬学部・薬学科・准教授） 研究課題：皮膚の状態がフェンタニル製剤の経皮吸収に及ぼす影響 研究期間：2023年4月～2024年3月 助成金：500千円</p>
<p>2. 地域医療に貢献できる 独創的な研究を進めるための研究環境の整備</p>	<p>①研究環境の整備と適切な運営・管理【研実】 ◆研究環境に関する満足度調査であがった課題の改善に努める。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 1) 研究に費やす時間配分率（年間）について 研究時間の確保が難しい理由は、学生の教育指導に必要な「授業」と「会議」に費やす時間が多いためであるとの調査結果であった。授業時間については、カリキュラムの遂行上、減らすことは出来ないため、研究関連委員会としては、会議時間の短縮を図っている。例えば議論によって中身が錬磨され向上する議案がある場合</p>

	<p>は対面会議を行い、単に承諾や確認だけの議案の場合はメール会議を行うなど、教員固有の時間を確保するように努めている。</p> <p>2) 研究費全般の申請、執行手続について 手続に係る時間の短縮を図るため、令和5年度から電子決裁システムの導入が予定されている。</p> <p>3) 研究環境（施設の広さや設備機器等）について 機器の老朽化等による更新は順次行われている。</p> <p>4) 学部生の研究環境について アンケートにより、卒業研究（肯定意見74%）及び研究設備や実験室等の施設（肯定意見64%）の結果を得たことから、学部学生は研究環境について概ね満足しているものと受け止めている。今後も学生の声に傾注し、改善事項が生じた場合は、関係部署と連携のうえ対処していく。</p> <p>5) 大学院生の研究環境について 研究設備や実験室等の施設に関する現状肯定的意見は35%であり、院生の研究室不足を指摘する意見が多かったため、年度内に院生研究室の拡充を行った。また、研究機器等については、指導教員と緊密な連携を取り、共通研究費から措置する等、院生の要望に応える柔軟な対応を取るようにした。今後もキャンパス毎に適切な設備や施設の配置、機器の更新に努めていく。</p>
<p>3. 学内研究の推進と研究指導者の育成</p>	<p>①学部学生及び社会人、特に本学卒業生の大学院入学の促進を目的とした情報提供等の広報活動を強化する。(同窓会を利用して大学院の情報を流すなど新たな情報提供の場を設ける。)【大学院】 <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 1) 同窓会誌へ大学院入試日程等を掲載し、卒業生への入試PRを行った。 2) 大学祭において、大学院の研究紹介ブースを設置し、大学院のPRに努めた。</p> <p>②大学院兼任教員を可能な範囲で増員し、全学的な研究指導体制を強化する。【大学院】 <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 医療科学研究科に、2023年4月から作業療法学分野の設置を進め、大学院兼任教員が2名増員された。また、医療栄養学分野で1名、看護学分野で2名が新規に兼任教員となった。</p> <p>③教員の博士学位取得の奨励（本学大学院への本学教員の進学が可能になった場合）【大学院】 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input checked="" type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 教員の学内進学に関する規程を検討・作成中である。</p>
<p>4. 研究活動推進のための外部資金の獲得</p>	<p>①科研費等の競争的外部資金を獲得するための具体的方策の取り組み【研実】 ◆科学研究費などの外部資金の獲得増大を図るため、採択経験豊富な教員による計画書の作成方法等に関する研修会を実施する。 <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 2022年8月23日、佐藤英介教授（薬学科）を講師とし、採択されやすい計画書の作成について講演会（オンライン）を開催した。 科研費申請件数は、2022年度は学長の指導の結果、103件に増加し</p>

	<p>た。今年度も申請件数100 件以上を目標とする。</p> <p>◆国内の研究振興財団や民間企業等からの研究費助成の公募案内を全教員にメール等で周知し、研究費助成金を獲得する体制を整える。 ■達成(100%) <input type="checkbox"/> ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/> 遅れ有(50%) <input type="checkbox"/> 大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 国内の研究振興財団や民間企業等から公募案内のあった研究助成金制度について全教員メーリングリストに送信し周知させた。</p> <p>②ホームページで教員の研究成果や取組事例の紹介【研実、社セ】 ◆教員の研究成果を大学ホームページで随時紹介し、研究活動に関する広報を充実させる。 ■達成(100%) <input type="checkbox"/> ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/> 遅れ有(50%) <input type="checkbox"/> 大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 ホームページに以下の研究成果、取組事例等を公開した。 ・教員の研究成果（英文論文発表者）7名、論文賞等の受賞者3名 ・SUMS 学科横断的研究助成対象者・課題名3件 ・科研費採択者・課題名一覧（2020年度～）（36課題36名） ・イノベーション・ジャパン2022～大学見本市&ビジネスマッチング～Online への出展（薬学科・教授 1件）</p> <p>◆科研費助成が採択された教員の氏名と研究課題を大学ホームページに掲載し、本学の研究活動を広く社会に発信する。 ■達成(100%) <input type="checkbox"/> ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/> 遅れ有(50%) <input type="checkbox"/> 大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 2020年度分からの科研費採択者・課題名一覧をホームページに掲載した。</p>
<p>5. 研究倫理の確立と厳正な運用</p>	<p>①研究倫理に関する体制整備【研実】 ◆最新の研究倫理に関する諸規程を随時紹介し、学内の臨床研究倫理審査委員会と連携して研究倫理の理解向上と研究支援体制の整備を図る。 ■達成(100%) <input type="checkbox"/> ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/> 遅れ有(50%) <input type="checkbox"/> 大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 2022年11月、研究者の行動規範を制定した。また、ホームページに以下の研究倫理に関する諸規程を公開した。 1) 本学規程 ・鈴鹿医療科学大学における研究活動上の不正行為の防止及び対応に関する内規 ・臨床研究取扱手順書 ・利益相反マネジメント規程 ・臨床研究に係る利益相反マネジメント内規 2) 国の指針等 ・人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針（文部科学省等） ・人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針 ガイダンス</p> <p>②研究倫理の厳正な運用【研実】 ◆毎年度の「研究倫理に関する研修会」の受講を推奨する。 ■達成(100%) <input type="checkbox"/> ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/> 遅れ有(50%) <input type="checkbox"/> 大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 三重大学臨床研究開発センターのeラーニングサイトで研究倫理に関する研修会の資料を受講するよう推奨した。</p>

<p>6. 産学官連携研究活動の推進</p>	<p>①ホームページで教員の産学官連携研究活動の成果や取組事例の紹介【社セ】</p> <p>◆教員の研究成果を大学ホームページで随時紹介し、研究活動に関する広報を充実させる。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>ホームページに以下の研究成果、取組事例等を公開した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員の研究成果（英文論文発表者）7名、受賞者3名 ・SUMS 学科横断的研究助成対象者・課題名3件 ・科研費採択者・課題名一覧（2020年度～）（36課題36名） ・イノベーション・ジャパン 2022～大学見本市&ビジネスマッチング～Online への出展（薬学科・教授 1件） <p>②外部の産学官連携活動への参加による学内の研究活動情報の積極的発信</p> <p>◆外部機関等による産学官連携活動に積極的に参加し、学内の研究活動情報の発信に努める。【社セ】</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 技術移転に係わる目利き人材育成プログラム（8月24日～25日／科学技術振興機構主催）に参加し、産学官連携コーディネータ活動やリスクマネジメント、技術移転に関する業務課題と解決等について学び、併せて本学の研究活動情報を発信した。 2) 大学の強みを社会に活かす事業化×知財戦略（12月23日／文部科学省主催）に参加し、大学における知財戦略立案と知財化について学んだ。 <p>◆国立研究開発法人・科学技術振興機構が主催するイノベーション・ジャパン等への参加を支援し、学内の研究成果を積極的に発信する。【社セ】</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>イノベーション・ジャパン 2022～大学見本市&ビジネスマッチング～Online に以下の教員が出展した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・米田 誠治 薬学科・教授 <p>「プラチナを用いた費用対効果に優れた制がん剤の開発」</p> <p>◆みえメディカルバレー構想、みえ LIP 等の活動に参加し、学内の研究成果を積極的に発信する。【社セ】</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>3月9日、本学研究担当副学長がみえメディカルバレー企画推進会議会長として参加し、広報活動を推進した。また、みえ LIP 鈴鹿関連会議に本学研究担当副学長と研究振興課長が参加し、研究成果を発信した。</p> <p>◆SUZUKA 産学官交流会の活動に参加し、学内の研究成果等を積極的に発信し、地域企業等との共同研究を推進する。【社セ】</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>SUZUKA 産学官交流会に、本学研究担当副学長が理事、研究振興課長が事務局役員として、会の運営に携わった。</p> <p>以下の企業との共同研究が2018年から継続して行われ、学術論文として公表している。</p>
------------------------	---

	<p>・江南化工株式会社（四日市市）との共同研究 共同研究者：鈴木 宏治 教授（薬学部・薬学科）</p> <p>◆三重大学との包括的連携協定に基づき、両校間の共同研究を推進する。【社セ】</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 各学科1～2名の教員が三重大学教員との共同研究を進めており、引き続きこれを推進していく。</p> <p>◆鈴鹿工業高等専門学校との学術協定に基づき、医工連携研究会を毎年開催し、両研究機関の共同研究を推進する。【社セ】</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 SUMS-NITS 医工連携研究会は毎年2回開催しており、今年度は以下のとおり開催した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第12回：令和4年9月29日（木）17時00分～18時45分（Zoom） 奥村 克純 鈴鹿医療科学大学・学長付・教授 「動物細胞ゲノムの核内ダイナミクスとその応用」 伊藤 明 鈴鹿工業高等専門学校・電子情報工学科・教授 「看護理工学的観点からの共同研究立ち上げ事例紹介」 ・第13回：令和5年3月15日（水）16時00分～17時45分（Teams） 島中 泰彦 鈴鹿医療科学大学・保健衛生学部・リハビリテーション学科・教授 「フレイル、サルコペニア改善のためのコアトレーニングマシンの開発」 白井 達也 鈴鹿工業高等専門学校・機械工学科・教授 「マルチモーターパワーユニットと装着型姿勢アシスト装置の開発」 <p>共同研究としては以下の事例がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プラズマ放電の産業応用への共同研究 SUMS：中山 浩伸 教授／NITS：横山 春喜 教授 ・交流電磁場のバイオフィルム抑制効果を利用した感染制御装置開発のための基礎研究 SUMS：三浦 英和 准教授／NITS：兼松 秀行 教授 ・看護理工学による看護実習の遠隔教育支援システムに関する研究 SUMS：河尻 純平 准教授、林 暁子 助教／NITS：伊藤 明 教授 <p>◆鈴鹿病態薬学研究会を毎年開催し、学外研究者との交流と共同研究を推進する。【社セ】</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 鈴鹿病態薬学研究会は毎年開催しており、今年度は以下のとおり開催した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第19回：令和5年2月22日（木）17時～19時（Zoom） 七戸 新太郎 大阪大学微生物病研究所・感染機構研究部門・分子ウイルス分野・助教 「COVID-19とmRNAワクチン：ワクチン研究の新展開」 <p>◆学内で実施されている大学院セミナー、薬学セミナー等を支援する。【研実、社セ】</p>
--	--

	<p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>定期的に開催される医療科学科大学院セミナーや薬学科セミナーに参加し、学内研究者の研究内容の理解と情報共有を図り、共同研究等の推進に努めた。</p> <p>◆本学の研究成果等について、企画広報課と連携して社会的メディア（新聞・テレビ・ラジオ等）を活用して情報発信に努める。【研実、社セ】</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>学研の情報サイト「健達ねっと」に、以下の教員のインタビュー記事が掲載された。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・薬学科・教授「アルツハイマー病における終末糖化物質の神経障害メカニズムの研究」（6月） ・看護学科・教授「高齢者入居施設における終末期ケアについて」（8月） <p>③特許出願情報の管理【社セ】</p> <p>◆特許出願情報の管理について、出願情報を研究振興課に報告する体制を整備する。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>知的財産管理規程に基づき、職務発明を行い、特許出願をしようとする場合は学内外で発表する日の少なくとも1か月前までに、発明等の届出書を研究振興課まで提出するよう全教員に周知させた。</p>
--	---

第 1 - 2 期の活動計画の達成状況

重点分野 7 : 国際交流の推進						
<p>【基本方針:2】 留学生の確保</p> <p>【中期計画】2021 年度-2026 年度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 留学生受入れのための体制づくりのための調査研究 2. 留学生の受入れから管理全般を担当する専門部署の設置検討 3. 中期計画 1、2 を踏まえた事業の実施 4. 学科単位での学生の海外体験の機会の拡充 						
<p>責任者: 高木久代 (国際戦略担当副学長)</p> <p>分担者: 永坂哲 (学長付教授)、小山尚樹 (入学課長)、長谷川誠仁 (大学院課長)、真弓昭 (研究振興課長)</p> <p>事務局: 入学課、大学院課、研究振興課</p>						
	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度
中期計画 1.	—————→					
中期計画 2.		—————→				
中期計画 3.						—————→
中期計画 4.	—————→					
2022 年度活動計画						
対応する中期計画項目	活動計画内容					
1. 留学生受入れのための体制づくりのための調査研究	<p>①他大学における受入れ体制を調査</p> <p>◆本学と学科構成が似ている医療系大学を対象に、受入れ体制の実態を調査している。それをもとに本学に当てはめて検討し、受け入れマニュアルを作成する。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>国際交流センターにおいて、留学生受入れマニュアルの準備を進めている。</p>					
2. 留学生の受入れから管理全般を担当する専門部署の設置検討	<p>①留学生の受入れから管理まで一元的に行う部署の設置を準備している。</p> <p>◆現在の事務局はすべて兼務で行っているため、専任で国際交流業務を担う部署の設置を準備している。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>昨年 4 月に国際交流を専門とする教員が着任し、同教員を中心に専門部署の準備が進められてきた。今年 4 月に国際交流センターが設置され、同センターでは海外の大学との交流等について一元的に行っていく。又提携大学への学生の短期、長期の留学希望が実現できるように対応をしていく。</p> <p>◆専門部署において危機管理マニュアルの策定等、運営体制を整備している。</p>					

	<p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>国際交流センターにおいて、危機管理マニュアルの策定や運営体制の準備を進めている。</p>
<p>3. 中期計画1、2を踏まえた事業の実施</p>	<p>①中期計画1及び2を踏まえ、専門部署において事業を展開していく。</p> <p>□達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>(専門部署が設置された後の事業になるため、本件は非該当)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>専門部署が設置された後に事業を展開していく。</p>
<p>4. 学科単位での学生の海外体験の機会の拡充</p>	<p>①既に学生の海外研修を実施している鍼灸サイエンス学科、医療健康データサイエンス学科、看護学科の3学科について活動を継続し、さらに活発化する。</p> <p>◆コロナ禍による交流の断絶を避け、上記の学科に加え、本大学の全ての学科は、教員、学生達が海外の大学の教員、学生達とオンラインを使用して状況を確認し合う。国際交流の第一歩とする。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>天津中医薬大学とは、本学鍼灸サイエンス学科教員と定期的に学術交流(オンライン)を行っており、昨年11月に開催した第7回日本薬膳学会学術総会においても、互いに協力体制のもと運営することができた。</p> <p>中国医薬大学とは、2016年から交流を行っているが今年1月、教育・研究連携に関する覚書を締結した。今後は新型コロナウイルス感染症の終息状況を踏まえ、学生間の教育研修など両大学との交流が充実するよう推進していく。</p> <p>医療健康データサイエンス学科は、新型コロナウイルス感染症の影響で漢陽大学校(韓国)との交流が途切れないよう、教員間で定期的に連絡を取り合っており、今後同感染症の終息状況を踏まえて現地研修の再開を検討していく。</p> <p>鍼灸サイエンス学科、看護学科、医療福祉学科においては、以下の国際交流事業を開催した。</p> <p>1) 鍼灸サイエンス学科</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第7回日本薬膳学会学術総会(2022年11月27日/対面) <p>2) 看護学科</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別講義「英国での在宅看護」(2022年5月24日/オンライン) ・特別講義「感染症のパンデミック下での対応」(2022年5月25日/オンライン) ※全学科参加形式 <p>3) 医療福祉学科</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公開特別講座「犯罪と逸脱の心理学：台湾の現状と展望」(2023年1月28日/対面) <p>②学生の国際交流が未実施である学科への支援</p> <p>◆教員レベルで繋がりのある大学等を一つの切り口として、委員会で検討し、教員個人の関係から前進し大学間での提携を結ぶようする。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>昨年度、新たに以下の大学との国際交流協定が締結されたため、特に国際交流が未実施の学科については、これらの大学との交流を充実させていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クーグ歯科学大学(インド) ・グリフィス大学(オーストラリア) ・セント・ベネディクト/セント・ジョンズ大学(アメリカ)

	<ul style="list-style-type: none">・コンケン大学 (タイ)・中国医薬大学 (台湾)
--	---

第 1 - 2 期の活動計画の達成状況

重点分野 8 : 信頼性の高い事業継続可能な組織体制の改革						
<p>【基本方針:1】 面倒見の良い、魅力ある大学</p> <p>【基本方針:4】 教職員の資質向上</p> <p>【基本方針:7】 大地震など災害への備え</p> <p>【中期計画】2021年度-2026年度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実効性のある中期的な計画の策定・実行・評価（PDCA サイクル）による大学価値向上と確実に推進するため、教員と事務職員等が、教職協働体制のレベルアップを図る。 2. 危機発生時における体制の整備と、BCP を含めた各種マニュアルの更新を行う。 3. 教職員に対し、ハラスメント防止対策などの社会的責任、法令遵守に対する意識を向上させる研修会等を行うことで、組織の体制整備のレベルアップを図る。 						
<p>責任者: 豊田長康 (学長)</p> <p>分担者: 鈴木秀幸 (法人事務局長)、村田尚久 (大学事務局長)、勝田能成 (学生課長)、防災危機管理対策委員会、矢田智樹 (人事・厚生課長)</p> <p>事務局: 学生課、人事・厚生課</p>						
	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
中期計画 1.	—					▶
中期計画 2.	—					▶
中期計画 3.	—					▶
2022年度活動計画						
対応する中期計画項目	活動計画内容					
<p>1. 実効性のある中期的な計画の策定・実行・評価（PDCA サイクル）による大学価値向上と確実に推進するため、教員と事務職員等が、教職協働体制のレベルアップを図る</p>	<p>①数値データをもとに議論する文化の醸成とどうすればできるかを考えるクリエイティブな考え方を身に着ける仕組みを構築し、研修する。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>FD/SD 合同研修会（高等教育コンソーシアムみえ FD/SD 合同研修会共催） 開催日：令和4年9月21日 豊田学長「IRを活用したevidenceに基づく教育改革を目指して」</p> <p>統計的因果推論勉強会（IR推進室主催） 開催日：1/10, 1/17, 1/31, 2/7, 2/14, 2/22, 2/27, 3/13, 3/23 (計9回の開催)</p> <p>②DX（デジタルトランスフォーメーション）推進に向けて、事務局全課において対象業務の選定及び試行する。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>DX 推進に向けて業務の選定及び試行した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・物品購入電子決済の試行（令和4年4月）（経理課、管財課） ・業績管理システムの試行（令和4年11月）（企画広報課、人事厚生課、研究振興課、IR推進室） 					

	<p>・学修成果の可視化に対応した教務システムの選定（教務課）（令和5年運用予定）</p> <p>③仮説を立てて実証・検証するという思考法を事務職員が理解し、身に着ける仕組みを構築し、研修する。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 FD/SD 合同研修会（高等教育コンソーシアムみえ FD/SD 合同研修会共催） 開催日：令和4年9月21日 豊田学長「IRを活用したevidenceに基づく教育改革を目指して」</p> <p>④教員のエフォート率を概ね「教育（専門担当科目、学科共同教育）50%」「研究（専門分野研究、教育研究）25%」「全学組織活動（初年次教育、多職種連携教育、委員会、入学募集活動、社会貢献活動、公共機関等との共同研究など）25%」とバランスを整えていく。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 教員評価における評価項目に、教育と研究以外に社会貢献枠を設け、公開講座、高校連携事業、公的機関連携事業、本学関連施設の診療、学会学術団体の参画について、また学内の管理・運営実績枠を設け、全学委員会、部局委員会、広報活動について、其々の活動目標を具体化し、その活動実績に対して自己評価と上司評価を実施している。</p>
<p>2. 危機発生時における体制の整備と、BCPを含めた各種マニュアルの更新を行う</p>	<p>防災・危機対策管理委員会を中心に、危機発生時における対応の他、リスク管理（予防）においても、発生しうるあらゆるリスクを事前に整理し、危機管理対策本部の体制（危機レベルに応じた構成員、指揮・命令系統）や、事業継続も含めたマニュアルの作成及び、随時更新を行う。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 今後のテーマとして掲げたBCPの作成については、大学HP学内専用コンテンツに掲載、また新型コロナウイルス感染症対策マニュアルの状況に見合った改定版の作成については、学長と感染症危機管理チームの連名にて改訂版として、都度全学生と教職員に対して周知を行った。</p>
<p>3. 教職員に対し、ハラスメント防止対策などの社会的責任、法令遵守に対する意識を向上させる研修会等を行うことで、組織の体制整備のレベルアップを図る</p>	<p>ハラスメントに対する理解を深めるための研修会やその他コンプライアンス研修会を年次計画により実施し、教職員の参加率100%を目標に、社会的責任や法令遵守に対する組織全体のレベルアップを図る。（年1回）</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 2023年3月に教職員全体研修会として、名古屋大学ハラスメント相談センターから講師を招き実施した。参加率としては90.8%であったため、今後も参加率100%を目指し、改善していく。</p>

第 1 - 2 期の活動計画の達成状況

重点分野 9 : 財務基盤の充実						
<p>【基本方針:全体】 経営体制の充実・強化、財務基盤の充実、補助金等の外部資金の獲得 【中期計画】2021年度-2026年度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学納金収入の増加のための取り組みの実行と検証 2. 教育設備・研究設備等に関する補助金収入の増加のための取り組みの実行と検証 3. 研究に関する補助金や大学のシーズを活用した外部資金の獲得のための取り組みの実行と検証 4. 経費削減に関する取り組みの実行と検証 						
責任者:鈴木秀幸(法人事務局長) 分担者:辻井悦生(管財課長)、岩田善光(経理課長)、真弓 昭(研究振興課長)、 経費削減推進委員会 事務局:経理課						
	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
中期計画 1.	—					▶
中期計画 2.	—					▶
中期計画 3.	—					▶
中期計画 4.	—					▶
中期計画 5.	—					▶
2022年度活動計画						
対応する中期計画項目	活動計画内容					
1. 学納金収入の増加のための取り組みの実行と検証	重点分野 1 : 大学拡充計画の推進や重点分野 2 : 大学広報の強化と入学者受け入れの改善の計画の進捗により、学納金収入の増加を検討していく。(前年比 2.0%増を目標) ■達成(100%) <input type="checkbox"/> ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/> 遅れ有(50%) <input type="checkbox"/> 大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 学納金収入は、前年比 2.7%増加することができた。					
2. 教育設備・研究設備等に関する補助金収入の増加のための取り組みの実行と検証	①学科ごとの教育設備における中長期計画内容の共有化 ◆学科予算打ち合わせ時における各学科からの「今後 6 年間における学科内教育設備整備計画」により共有化 (2023年2月) ■達成(100%) <input type="checkbox"/> ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/> 遅れ有(50%) <input type="checkbox"/> 大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 中期計画(6年間)の見直しの実施(補助金対象設備の選定)(2月) ②各学科の中期計画に則った教育設備に対する補助金や ICT などの施設設備に対する補助金の募集状況に応じた申請を行う ◆上記「学科内教育設備整備計画」に基づき申請 ・ICT活用推進(LAN設備整備費) 補助金申請(2022.4) ・研究設備(マイクロバイエクション) 補助金申請(2022.6)					

	<ul style="list-style-type: none"> ・教育装置（乳房X線撮影装置） 補助金申請（2022.6） ・教育基盤（硬性内視鏡システム） 補助金申請予定（2022.9） <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICT活用推進（LAN設備整備費） 申請実施（4月）不採択 ・研究設備（マイクロイメージング） 申請実施（6月）不採択 ・教育装置（乳房X線撮影装置） 申請実施（6月）採択 補助金申請を実施 ・教育基盤（硬性内視鏡システム） 申請募集無（R5年度予定）
<p>3. 研究に関する補助金や大学のシーズを活用した外部資金の獲得のための取り組みの実行と検証</p>	<p>①教員の研究活動に資するための財務基盤として、大学の研究シーズを活用した研究に関する補助金、受託・共同研究費、寄附金の獲得</p> <p>◆教員の研究成果や取組事例を紹介等ホームページの充実を図る。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>ホームページに以下の研究成果、取組事例等を公開した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員の研究成果内容の紹介7名、研究成果に対する受賞3名 ・SUMS 学科横断的研究助成対象者3課題（3名） ・科研費採択一覧（2020年度～）（36課題36名） ・イノベーション・ジャパン 2022～大学見本市&ビジネスマッチング～Online への出展（1件） <p>◆イノベーション・ジャパン等の産学連携イベントに参加し、学内の研究成果を積極的に発信する。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>イノベーション・ジャパン 2022～大学見本市&ビジネスマッチング～Online に出展（課題名：プラチナを用いた費用対効果に優れた制がん剤の開発）</p> <p>◆学内の研究成果等について、企画広報課と連携して社会的メディア（新聞・テレビ・ラジオ等）を活用した情報発信に努める。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>学研の情報サイト「健達ねっと」に、本学教員のインタビュー記事が掲載された。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・薬学科・教授「アルツハイマー病における終末糖化物質の神経障害メカニズムの研究」（6月） ・看護学科・教授「高齢者入居施設における終末期ケアについて」（8月）
<p>4. 経費削減に関する取り組みの実行と検証</p>	<p>①経費削減推進委員会の活動対象を、従来の省エネルギーに関する活動以外に、事務局のコピー機利用削減（ペーパーレス化）を目標とした活動を加える（全体枚数、カラーコピー枚数前年比5%削減を目標）。</p> <p>□達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) ■遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認証評価資料作成等によりコピー枚数の増（R3.6～R4.2とR4.6～R5.2を比較）974,999枚から824,925枚（+150,074枚、+18%の増）

	<ul style="list-style-type: none"> ・カラーコピー率の削減（R3.6～R4.2とR4.6～R5.2を比較） <p>23.9%から21.3%に減（▲2.6%の削減）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度からは電子承認運用による申請用紙等のペーパーレス化による印枚数削減が可能認証評価終了に伴うコピー枚数の減が可能 <p>②施設関係（千代崎・白子キャンパス）</p> <p>2022年度は電気使用量 53,000kw/年削減 省エネ行動の徹底及び照明LED化、高効率空調機への更改 ※53,000kw/年は原油換算（特定事業者）1%削減による 2023年度以降は前年度使用量1%削減を数値化する。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>令和4年度(2022)の電気使用量は令和3年度(2021)より6.5%程度増加見込み(令和3年度より+152,431kw増加+3.0%増) (理由)対面授業の拡大による電気使用量増加</p> <p>電気使用料削減のための施設整備 (千代崎)管理棟事務室、外部回廊部のLED化実施(9月完成) A講義棟講義室(3111、3211)LED化実施(9月完成) 東洋医学研究所高効率空調更改I期実施(12月完成)</p> <p>(白子)外灯20台LED化完了(12月完成) 3号館高効率空調更改II期実施(12月完成)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆省エネルギー意識向上のための講演会の開催(年1回) <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>令和5年3月実施 令和5年1月 本学HPに節電要請掲載(2月)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆サムスエコ通信の発信(年6回) <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>各月(5月、7月、9月、11月、1月、3月)に教職員全員に配信 節電要請メール追加発信(1月、2月)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆新たな経費削減メニューの提案(2022年10月) <p>□達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) ■遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>火災保険更新に伴う契約会社の見直し(▲2百万円削減) 未使用講義室の消灯及び空調停止の確認</p> <p>③経費削減意識の向上を目的とした活動の継続的実行</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆未使用講義室の消灯及び空調停止確認による電気使用量削減(毎日、チェック表による確認) <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>冷房期間(6月～9月)講義室消灯及び空調停止確認実施 暖房期間(12月～3月)講義室消灯及び空調停止確認実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆電気使用量実績共有による節電意識の向上(毎月、使用実績の共有) <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>経費削減推進委員会での電気使用量(電気料金)の共有を実施</p>
--	--

	<p>◆千代崎キャンパスへの太陽光導入に向けた検討（場所、容量他）</p> <p><input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>JART本館屋上への太陽光パネル設置（10kw）検討完了</p>
--	---

第1－2期の活動計画の達成状況

重点分野 10：4つのポリシーの実質化						
<p>【基本方針：1】 面倒見の良い、魅力ある大学</p> <p>【基本方針：5】 医療・福祉の総合大学化の完成と改組</p> <p>【中期計画】2021年度-2026年度</p> <p>1. 4つのポリシーの運用に関するPDCAサイクルの仕組みを実行する。 2. ディプロマポリシーの達成度をチェックし、向上させる仕組みを実行する。 3. 各学科のアセスメントポリシーに基づいて、自己評価委員会を通して点検・評価し改善する。</p>						
<p>責任者：豊田長康（学長） 分担者：教育改革委員会、教育質保証委員会 事務局：教務課</p>						
	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
中期計画 1.	→					→
中期計画 2.	→					→
中期計画 3.	→					→
2022年度活動計画						
対応する中期計画項目	活動計画内容					
<p>1. 4つのポリシーの運用に関するPDCAサイクルの仕組みを実行する</p>	<p>①教育目標を踏まえたディプロマポリシーを学生に周知する。 ■達成(100%) <input type="checkbox"/> ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/> 遅れ有(50%) <input type="checkbox"/> 大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 学生要覧を基に新入生にはオリエンテーション、在学生にはガイダンス時に説明し、ディプロマ・ポリシーとの一貫性を説明し、個人面談の際にも教務システム SUMS-PO の学修カルテ機能を利用し周知している。学修カルテは、履修科目がディプロマ・ポリシーに繋がっていることが可視化できるようにしている。なお、9月から教務システムの入替えを予定していますが、さらにポリシーや教育目標との紐づけの可視化が充実するように調整している。</p> <p>②カリキュラムマップを基に、ディプロマポリシーとの一貫性を学生に周知する。 ■達成(100%) <input type="checkbox"/> ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/> 遅れ有(50%) <input type="checkbox"/> 大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 カリキュラム・マップを基に新入生にはオリエンテーション、在学生にはガイダンス時に説明し、ディプロマ・ポリシーとの一貫性を周知し、個人面談資料としても利用している。また、9月からの教務システム入れ替えに伴い、日頃から、学生自身が立ち位置を確認できるように可視化の充実を目指す。</p> <p>③4つのポリシーと教育課程との整合性を教育質保証委員会が点検し、教育改革委員会へ状況を報告する。 ■達成(100%) <input type="checkbox"/> ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/> 遅れ有(50%) <input type="checkbox"/> 大幅な遅れ有(30%未満)</p>					

	<p>上記達成状況の具体的内容 各学科の教育質保証委員会は、11月と3月の年2回、学修成果を基に学科の教育課程との整合性に関する報告書を提出し、教育改革委員会は提出された報告書を確認し、審議した結果を、各学科の教育質保証委員会へ、報告・指摘している。</p>
<p>2. ディプロマポリシーの達成度をチェックし、改善点を検討する。</p>	<p>①卒業生予定者に、学修成果に関する達成度を測定するアンケートを実施し、蓄積している調査結果と併せて分析し、改善点等について、教育質保証委員会で検討する。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 卒業時に「学修成果に係る自己評価」アンケートを実施しており、毎年85%以上の回答率の中、80%以上の卒業生が「達成している」「ほぼ達成している」と回答していることを確認している。2022年度も、回答率95.6%のうち、85.5%以上の卒業生が、「非常に・かなり・多少」身についていると回答していた。本アンケート結果をホームページ上で公開し、卒業生に結果を周知するとともに、教務委員会を中心に、各学科の教育質保証委員会で確認および改善検討している。</p> <p>②教育方針の改善点等について、年度末に教育質保証委員会は、教育改革委員会へ報告する。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 各学科の教育質保証委員会は、年度末に学修成果を基に「留年者が発生した学科・専攻に係る次年度の改善目標・計画書」または「留年者ゼロの学科・専攻の取り組み実績・次年度計画書」のいずれかの報告書を提出し、教育改革委員会はその報告書を基に審議し、審議結果を各学科の教育質保証委員会へ報告している。また、各学科の報告書は全学科長へ配布し、参考にしている。</p>
<p>3. アセスメントポリシーについて、教育質保証委員会を通して確認する。</p>	<p>①学生のPDCAを促し、教育効果の有用性を確認するために、教務システムSUMS-POの学修カルテ機能を活用し、学生自らの学修行動を振り返り、担任教員によるコメントも含め、学生の主体的な学習を促すために仕組みを構築する。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 教務システムSUMS-POの学修カルテ機能を活用し、学生のPDCAを促し、教育効果の有用性を確認する仕組みを構築した。各学科の教育質保証委員会ではこの内容を確認し、担任教員から学修指導を行っている。なお、2023年度9月から、新システム導入が決定しており、学修カルテ機能を活用し、学生自らが立ち位置を把握し、学修行動を振り返り、担任教員によるコメントも含め、学生の主体的な学習を促すために仕組みを構築する予定である。</p> <p>②反転授業の推進、オンライン環境下での試験実施方法の開発など新たな学修評価の在り方を開発する。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 基礎学力養成教育を意識したリメディアル教育の実施を支援する組織を「医療人底力教育センター」内に設置することを決定し、2022年度から本格的な運営がなされることになった。遠隔会議システムZoomや動画などを活用した反転授業用教材を事前学習や事後学習に役立てるために、全教員及び全学生がlearningBOXを活用できる体制を整備した。2022年度版のFDハンドブックを作成し、SUMS-POや</p>

	<p>learningBOX の利用方法紹介および教育改善取り組みの具体的例示等を掲載し、LMS 研究部会を中心に学修評価の在り方を開発する活動をしている。</p>
--	--

第 1 - 2 期の活動計画の達成状況

重点分野 11：各学科教育の特色（放射線技術科学科）						
<p>【基本方針: 1】 面倒見の良い、魅力ある大学</p> <p>【基本方針: 5】 医療・福祉の総合大学化の完成と改組</p> <p>【中期計画】 2021 年度-2026 年度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善 2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み 3. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導 4. 市民公開講座の計画・実施 						
<p>責任者: 放射線技術科学科長 分担者: 大井一弥 (国家試験対策 WG 副委員長)、村田尚久 (大学事務局長)、宮崎和裕 (就職・キャリア支援課長)、松永ひとみ (教務課長) 事務局: 教務課</p>						
	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度
中期計画 1.	→					→
中期計画 2.	→					→
中期計画 3.	→					→
中期計画 4.	→					→
中期計画 5.						
2022 年度活動計画						
対応する中期計画項目	活動計画内容					
1. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善	<p>1. 教育環境の充実</p> <p>① 学生教育用に準備された最新医療機器を使い、臨床現場に則した学内実習を実施し教育内容を充実化する。そのために、計画的な機器の更新・管理運用を行う。令和 4 年度には、MMG 装置の更新を目指す。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 令和 4 年度私立学校施設整備補助金取得により乳房 X 線装置を更新。</p> <p>② 学生の自己学修時間や場所の確保等について環境整備をする。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 コロナ禍でもあり十分なスペースを確保できなかった。</p> <p>2. 質の高い臨床実習を実現するため、改善点として以下を計画する。</p> <p>① オンラインミーティングシステム (ZOOM) を活用し、全臨床実習指導施設 (約 70 施設) を対象とした臨床実習報告会および次年度臨床実習説明会を開催する。実施時期は 10 月および 2 月頃を予定する。</p>					

	<p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 9月28日に52施設76名の参加者を得てZoomで開催した。 3月15日に57施設97名の参加者を得てZoomで開催した。</p> <p>② 3年次5月に臨床実習希望施設調査を行うとともに教員との協議面談等を経て臨床実習指導施設を仮決定する ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 教員が手分けをして学生が希望する施設に仮決定した。</p> <p>③ コロナ禍を踏まえ、3年学内実習においてはオンラインと対面のハイブリッド方式を導入するとともに、年度末までに学内教員により対面での実技試験を導入する。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 前期の実習は対面で行うことができた。 後期はハイブリッド方式で行った。 実技試験は3月8日～3月22日にかけて8日間で行った。</p> <p>④ 臨床実習中、毎日の適度な目標設定とポジティブフィードバックおよびリフレクションを促す独自の「臨床実習ノート(ポートフォリオ)」を作成し、効果的な経験学習を促進する。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 学科独自の臨床実習ノートを活用。</p> <p>3. 教授方法のさらなる改善 ① 学修サポートシステムの教員活用を進める。特に今年度は、learning Box等のイーラーニングを用いた予習復習支援教材を導入する。2022年度は専門科目の80%以上で導入することを目指す。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 learning Box や sums-po の課題管理を利用して行った。</p> <p>② すべての演習・実習科目においてルーブリックを評価尺度として用い、総合評価に反映させる。 □達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 新任の教員がありすべてに用いられなかった。</p>
<p>2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み</p>	<p>1. 1年次の早期に臨床等で専門の資格を持って活躍、あるいは社会人大学院生として活躍する診療放射線技師と接する機会をつくり、将来のキャリアデザインを描く手がかりとする。医療人底力実践基礎Ⅰ学科プログラムにて企画する。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 底力教育の学科プログラムで対面により行った。</p> <p>2. 初期教育の一環として専門職にふさわしい態度等を学ぶ機会をつくる。マナー・ノンテクニカルスキル教育を2-3年生対象に実施する。特に、学内実験実習においては、必ず取り組む。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 ハイブリッドでの実習であったが行った。</p>

<p>3. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導</p>	<p>1. 目標値 受験者あたりの合格率 90% HR19 年入学生あたりの合格率 80% ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 今年の卒業予定者 126 名 合格者数 118 名 合格率 93.7% (内、HR19 生 97 名 入学生あたり 81.5%)</p> <p>2. 指導内容 教員が、学生全員を合格に導く熱意と気概を持ち、下記指導を徹底する。</p> <p>① 1 年次より国家試験への危機感を高め、出題傾向を意識した授業を実施する。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 国試の過去問を授業に取り入れた。</p> <p>② 1 年生、2 年生は、学年進級時の模擬試験を実施、3 年生は年 2 回の模擬試験実施、4 年生は年 6 回の模擬試験を実施する。 □達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) ■遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 1, 2 年生には実施できなかった 3 年生は 9 月と 2 月に 2 回 4 年生は実力試験を含め 6 回</p> <p>③ 4 年次模試の結果から、後期以降、成績不振者を月 1 回の模擬試験の結果から抽出し、対策授業とは別に補講を実施する。補講では毎回、課題を暗記させ、口頭試問またはイーラーニングによりアウトプットさせる。これを反復学習することにより、習慣と知識を定着させる。 □達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 9 月～2 月にかけて模擬試験の各科目 60%未満の学生を対象に対面やイーラーニングで月に 30 回以上行った。</p> <p>④ 担任教員による学修状況の確認と学修指導を行う。1-3 年生は年 3 回以上、4 年生は月一度以上の面談を実施する。 □達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 全学生にはできなかったが成績不良者や授業を良く休む学生には 3 回以上行った 4 年生は毎月の模擬試験後行った。</p> <p>⑤ 4 年後期、週一日、国試対策講義を開講する。 □達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 模擬試験と Zoom による講義 (1 教室に入れないため) で行ったが、毎週行えなかった。</p> <p>⑥ 模擬試験後の担任個人面談を実施し、生活状況の改善や国家試験学習支援 (個人指導) を行う。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 4 年生は毎月の模擬試験後行った。</p> <p>⑦ 模擬試験成績不振者の保護者へ成績通知を行う。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p>
---	--

	<p>上記達成状況の具体的内容 毎行行った。</p> <p>⑧ 10月以降模擬試験や9月以降国家試験対策講義(放射線科学特論)では、座席を模擬試験成績順(成績下位者から順に前方)に指定席を設定する。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 第2回目の模擬試験から導入した。 講義はZoomのため導入できていない。</p> <p>⑨ 国家試験直前の12月下旬から2月上旬にかけ、補習を実施する。 <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 1月～2月にかけて行った</p> <p>⑩ 各教員が国家試験の専門分野に精通し、国試全体も把握するため、毎回の模擬試験作成時に出題基準を明示する。 <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 学生に配布する解答用紙に記入した。</p>
<p>4 市民公開講座の計画・実施</p>	<p>・診療放射線技師の職務内容を広く多くの方に伝えるために市民公開講座を開催する。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input checked="" type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 開催できなかったが、鈴鹿市の健康フェアに学科共催でピンクリボン活動を行った。大学祭で三重県診療放射線技師会と共催で市民公開講座を開催した。</p>

第 1 - 2 期の活動計画の達成状況

重点分野 11：各学科教育の特色（管理栄養学専攻）						
<p>【基本方針: 1】 面倒見の良い、魅力ある大学</p> <p>【基本方針: 5】 医療・福祉の総合大学化の完成と改組</p> <p>【中期計画】 2021 年度-2026 年度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善 2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み 3. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導 4. 市民公開講座の計画・実施 						
<p>責任者: 医療栄養学科長 分担者: 管理栄養学専攻長、大井一弥（国家試験対策 WG 副委員長）、村田尚久（大学事務局長）、 宮崎和裕（就職・キャリア支援課長）、松永ひとみ（教務課長） 事務局: 教務課</p>						
	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度
中期計画 1.	→					→
中期計画 2.	→					→
中期計画 3.	→					→
中期計画 4.		→				→
中期計画 5.						
2022 年度活動計画						
対応する中期計画項目	活動計画内容					
<p>1. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善</p>	<p>1. 実習試験の導入と拡大 実習の効果をより可視化し適正な評価を行うために、実習の評価法としてレポートによるだけでなく、実習試験を実施するようになってきた。この方向性を継続拡大し、学生の自主的学習態度の一層の涵養に務める。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 生化学実験、基礎栄養学実習について、実習試験を行った。</p> <p>2. IR 分析結果を活用した教育改善 IR 室との連携をもって、学生の教育および生活の問題点を解析し、早期の解決を図るための検討資料とする。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 GPA を指標とした学修指導は行ったが、生活の問題点の解析には至っていない。</p> <p>3. 教育の保証委員会 “教育の質保証委員会”を設置して教員がシラバスに沿った教育を進めていることを評価確認し、必要に応じて助言する体制確立をめざす。</p>					

	<p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 シラバスに沿っていない場合は、質保証委員会より助言することになっている。</p>
<p>2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み</p>	<p>1. キャリアプランニング授業の構築 学生の将来のキャリアプランニング充実を目的として、卒業生を含む学内外の人を招き、モチベーション向上につながるような授業形式の懇話会／セミナーを計画する。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 3年生に対して、就職が内定した4年生が将来について懇話会を開催した。</p> <p>2. 早期導入教育の充実 1年生底力教育を利用して、管理栄養学専攻の立案に基づいて病院や福祉施設での管理栄養士の仕事を見学する機会を設け、早期の段階から学生の向学心高揚を目指す。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 福祉施設および薬局で働く管理栄養士による案内を1年生に対して行った。</p> <p>3. リメディアル教育の実効性向上 受験者数減少が進み、入学者の学力レベル低下が懸念されるためリメディアル教育の充実が喫緊の課題である。対象となる学生にリメディアル教育への参加を促し、成果としての学修到達度を担任教員が把握してモチベーション向上をはかるように指導する。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 管理栄養士に必要とされる基礎科目の化学、数学、生物学について指導した。</p> <p>4. 成績不振者に対するトコトン教育の充実 1～3年の後期終了時に成績不振者に対し、2者ないし3者面談を行い、IR推進室の分析結果や学習ポートフォリオ等を活用し、振り返りによる自己認識を行わせ、目的意識・学習意欲を高めさせると共に、Learning Boxなどの学修支援システムを活用した学習方法などの指導・支援を行う。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 必修科目のすべてについて、学生の意思確認後トコトン教育を行っている。</p> <p>5. 国家試験対策学習支援の充実 国家試験対策の柱となる模擬試験の結果を常時モニターし、模擬試験では終了後直ちに振り返り学習の時間をとることにより、学生が自ら集中すべき学習項目の確認できるようにする。また、成績不振者には集中して補講や個別指導、及び保護者を交えた面談などを行い、従来から進めてきた学生個々へのきめ細かな指導を継続する。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 各模擬試験の科目ごとの成績不振者について、個別指導を行っている。また、総合成績の不振者についても補講を行っている。</p>

<p>3. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導</p>	<p>1. 国家試験の現役受験者の合格率と入学者当たりの合格率向上 新卒者の管理栄養士国家試験合格率の目標は100%とする。また、進路変更や病気休学の学生を除いて、入学者の標準年限内の合格率は90%を目標とする。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input checked="" type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 新卒者の管理栄養士国家試験合格率は、75.6%であった。ストレート合格率は、77.3%であった。</p> <p>2. 国家試験対策 カリキュラムとして4年生前期の総合演習II、及び医療栄養学特別演習で国家試験対策の指導を行う。 <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 総合演習II、医療栄養学特別演習により指導を行っている。</p> <p>3. 3年生以下の学生対象の国家試験対策 3年生に対しても国家試験問題に接する機会が持てるようにして、学習の意義を具体的に意識させる。また、3年生の模擬試験受験を積極的に指導する。 <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 簡単な過去問を解けるよう問題演習を行っている。</p>
<p>4. 市民公開講座の計画・実施</p>	<p>1. 市民公開講座の実施 両専攻教員による公開講座を開催し、市民に本学科の研究、教育を紹介するとともに、この地域の健康、福祉の向上に貢献する。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input checked="" type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 コロナ感染の状況により公開講座としては行っていないが、救急・健康フェアにて市民に対して指導を行った。</p>

第 1 - 2 期の活動計画の達成状況

重点分野 11：各学科教育の特色（臨床検査学専攻）						
<p>【基本方針: 1】 面倒見の良い、魅力ある大学</p> <p>【基本方針: 5】 医療・福祉の総合大学化の完成と改組</p> <p>【中期計画】 2021 年度-2026 年度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善 2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み 3. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導 4. 市民公開講座の計画・実施 						
<p>責任者: 医療栄養学科長/臨床検査学専攻長 分担者: 大井一弥 (国家試験対策 WG 副委員長)、村田尚久 (大学事務局長)、宮崎和裕 (就職・キャリア支援課長)、松永ひとみ (教務課長) 事務局: 教務課</p>						
	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度
中期計画 1.	→					→
中期計画 2.	→					→
中期計画 3.	→					→
中期計画 4.	→					→
中期計画 5.						
2022 年度活動計画						
対応する中期計画項目	活動計画内容					
1. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善	<p>1. アチーブメントテスト(学習達成度確認試験)の充実 アチーブメントテストを共用試験に位置づけて1～3年次に実施し、各テストで一定以上の得点を取ることを臨地実習履修条件に加える仕組みを検討する。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 臨床検査学専攻3年生に対して2群(優秀群・非優秀群)に分け、各ゼミの格差是正に役立てる。また、裏回答作成方法を教授する。2年生に対しては、実力を把握して裏回答作成方法を教授する。</p> <p>2. OSCE(臨地実習前の技能修得到達度評価)の充実 OSCE確立に向け臨床検査技師養成所指導ガイドラインに基づき、現在の評価内容や評価方法を改善する。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 新カリキュラムの検査項目を導入して臨地実習前に実力をつけさせている。しかし、時間の問題があり、検査項目数に限界がある。</p>					

	<p>改善方法を検討している。</p> <p>3. IR 分析結果を活用した教育改善と成績不振学生の早期抽出法の確立 教育の質保証委員会の IR 委員及び LMS 委員を中心に IR データを解析し、その結果を基に教育内容・方法を改善する。また、成績不振学生とその予備軍を早期に抽出できる仕組みの確立に向けた検討を行う。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input checked="" type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 アチーブメントテスト、GPA,過去の国家試験合格の有無を調査してどこに問題があるかを検索している。高校入学者における啓発、高校教員の理解が必要と考える。</p> <p>4. 検査説明のための技能の育成 今後、臨床検査技師に求められる検査説明を行う為の技能の育成に関して、主に以下の二つ点からアプローチする。 ① 臨床検査医学演習 (R-CPC を含む)の充実:授業評価と試験を基にさらなる充実を図る。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 様々な症例を経験させることで検査の重要性を理解させている。</p> <p>5. 新規臨床検査学教育コアカリキュラムの実施と検証 2022年4月の入学生から適用されるコアカリキュラムについて、各科目の実施状況を評価し改善する。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input checked="" type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 新カリキュラム教科の担当教員の選定を実施している。医師働き方改革法案により、臨床検査技師の新規検査であるタスクシフトにおける研修会の参加である。約半数の臨床検査学専攻教員が受講終了した。</p> <p>6. 教育の質保証委員会 教育質保証委員会内規に基づき、当専攻における「トコトンできるまで教育(SUMS方式学修支援メソッド)」の確立・実施に向け教育に関連する課題について議論し、改革・改善を図る。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 再試験不合格者において講義、面談を実施している。特別教育を実施して学力に応じた教育を展開している。</p>
<p>2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み</p>	<p>1. 成績不振者に対するトコトン教育の充実 1～3年の後期終了時に、成績不振者に対し2者ないし3者面談を行う。その際、IR推進室の分析結果や学習ポートフォリオなどを活用し、振り返りによる自己認識を行わせ、目的意識・学習意欲を高める。また、learning Boxなどの学修支援システムを活用した学習方法について指導・支援を行う。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 補講の充実、Elearningの活用を実施している。</p>

<p>3. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導</p>	<p>1. 国家試験の現役受験者の合格率と入学者あたりの合格率向上</p> <p>① 臨床検査技師国家試験の現役受験者の合格率目標値を100%に、入学者(進路変更を除く)あたりの合格率目標値を90%に設定し、以下2.3.の取り組みを行う。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 国師対策として、補講の充実、面談を実施している。学習方法を教授して、統一した勉強方法を教授する。</p> <p>② 成績不振の学生に対しては、補講や面談といった人手による手厚いケアを行い、モチベーションを含めて成績の向上を図る。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 定期的に面談をしている。家庭環境の問題、授業料の話等の悩みを聞き、やる気を出させる努力をしている。</p> <p>2. 全教科に共通する効果的な教育方法の構築</p> <p>定期試験や模試結果の詳細な分析結果に基づき、全教科に共通する効果的な教育方法を構築する。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 医歯薬出版、協会模試、教員作成模試を実施して成績不振学生には、勉強方法を教授する。</p> <p>3. eラーニングシステムの構築</p> <p>記憶した知識のアウトプットが定着するまで、トコトンを繰り返すためのツールとしてeラーニングシステムの構築を進める。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 eラーニングシステムとして基礎編、応用編に分け、マスターする順番を学ばせ、実力をつけさせている。</p>
<p>4. 市民公開講座の計画・実施</p>	<p>1. 鈴鹿市健康フェアへの参加</p> <p>市民を対象に年1度、鈴鹿医療科学大学白子キャンパスで医師会、薬剤師会、看護協会等で開催する。臨床検査学専攻も超音波検査を実施する。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 検査学専攻では超音波(血管、甲状腺)を実施している。毎年、70名の受診者が居り、疾患も見つかっている。鈴鹿市民に貢献している。</p> <p>2. 検査と健康展への参加</p> <p>市民を対象に年1回、健康展を三重県臨床検査技師会主催で行う。市民を対象とした市民公開講座が開催される。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 本学で実施している。約250名が来ている。本学近隣の住民の啓発や本学学生には臨床検査技師の魅力を伝えている。</p>

第 1 - 2 期の活動計画の達成状況

重点分野 11：各学科教育の特色（理学療法学専攻）						
<p>【基本方針: 1】 面倒見の良い、魅力ある大学</p> <p>【基本方針: 5】 医療・福祉の総合大学化の完成と改組</p> <p>【中期計画】 2021 年度-2026 年度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善 2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み 3. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導 4. 市民公開講座の計画・実施 						
<p>責任者：リハビリテーション学科長 分担者：大井一弥（国家試験対策 WG 副委員長）、村田尚久（大学事務局長）、宮崎和裕（就職・キャリア支援課長）、松永ひとみ（教務課長） 事務局：教務課</p>						
	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度
中期計画 1.	→					→
中期計画 2.	→					→
中期計画 3.	→					→
中期計画 4.						→
中期計画 5.						
2022 年度活動計画						
対応する中期計画項目	活動計画内容					
1. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善	<p>2024 年国家試験出題基準改定に合わせたカリキュラム改定、講義内容の増加、担当者変更を行い、2023 年度より実施する。特に難易度の高い内容、実技実習を必要とする内容を優先する。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 昨年のカリキュラム改定以降、4 年後期の理学療法学特論にて各分野の国家試験対策を充実させている。</p>					
2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み	<p>1 年次、本学の特色であるロボットリハビリテーションの現場見学を通じ、学生の動機づけを図る。少人数のグループ毎に、本学敷地内の鈴鹿ロボケアセンターで実施する。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 講義の空き時間で日程調整し、実施中。 1 年次、底力教育の中に、障害者、家族の談話に傾聴する時間を設ける。 <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 予定通りの内容を実施できた。</p>					

<p>3. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導</p>	<p>本学学生の国家試験の解答内容から正解率の低い分野、科目を抽出し、科目担当者による講義内容の強化、成績不良者への補講を実施する。目標は新卒合格者 100%、入学者あたりの合格率 75%。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 国家試験の合格率は 97.3%、目標は新卒合格者 100%、入学者あたりの合格率 73%であった。</p>
<p>4. 市民公開講座の計画・実施</p>	<p>新型コロナ感染拡大状況に応じ、対面での市民公開講座を計画。内容により年度内、あるいは次年度実施を調整。 <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%)<input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 2023年2月20日に実施した。</p>

第 1 - 2 期の活動計画の達成状況

重点分野 11：各学科教育の特色（作業療法学専攻）						
<p>【基本方針: 1】 面倒見の良い、魅力ある大学</p> <p>【基本方針: 5】 医療・福祉の総合大学化の完成と改組</p> <p>【中期計画】 2021 年度-2026 年度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善 2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み 3. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導 4. 市民公開講座の計画・実施 						
<p>責任者: リハビリテーション学科長 分担者: 作業療法学専攻長、大井一弥（国家試験対策 WG 副委員長）、村田尚久（大学事務局長）、 宮崎和裕（就職・キャリア支援課長）、松永ひとみ（教務課長） 事務局: 教務課</p>						
	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度
中期計画 1.	→					→
中期計画 2.	→					→
中期計画 3.	→					→
中期計画 4.						→
中期計画 5.						
2022 年度活動計画						
対応する中期計画項目	活動計画内容					
1. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善	<p>1 年生では VR 教材を利用し臨床実習の初期の段階の準備を行う。4 年生の総合臨床実習が初めて行われる。実習配置から実習訪問など円滑に行うように計画を立てる。また、臨床実習の支援システムの本格運用を 2022 年度から実施し、学校と臨床現場との密な交流に役立てる。このことで臨床実習での問題を出来るだけ早期に解決できるように援助する。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>VR 教材は医療人底力実践 I の施設紹介で用いている。臨床実習の支援システムの運用はスムーズに行っている。OSCE を用いて臨床実習の準備を行っている。また、臨床実習の指導者に特別講師として講義を例年通り行っている。</p>					
2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み	<p>学習支援：講義・実習において小テスト等を利用すること、試験問題では国家試験に関する問題を 3 分の 1 出題することにより国家試験に慣れるように支援する。ラーニングボックスを利用して自主的な勉強に取り組めるように指導する。</p> <p>向学心の高揚：現場の臨床で働いている先生や作業に精通している芸術家、障がい者有した者を特別講師として授業で講義していただき、学生の作業療法士としての向学心の高揚への取り組みを行なう。</p>					

	<p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>小テストの利用、ラーニングボックスの模試への対応、また、障害を持った特別講師派遣など行えた。国家試験の対策のため業者による講習会を3日間集中して行った。また、その後、補習を学生主体的に企画した。</p>
<p>3. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導</p>	<p>合格率は100%を目指し、最低でも全国平均を上回る合格率を確保したい。そのため、1年から3年次にかけては3科目(生理学、解剖学、運動学)の模試を行い、学習効果の確認と学習の度合いを学生自身に周知させ、この模試での成績不良者においてはラーニングボックスを用いた振り返り、国家試験学習ノートの作成を課す。また、4年次の「総合演習」では、外部から講師招いて国家試験の学習戦略を習得させ、業者模擬および学内試験を実施して指導する。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>3科目模試の運用は行えている。国家試験は2月に予定されているので国家試験の評価はできていない。国家試験の合格率は91.7%で100%に達しなかったが、全国平均より高かった。総合演習の科目として外部講師を迎え、グループワークの方法を指導してもらった。</p>
<p>4. 市民公開講座の計画・実施</p>	<p>市民公開講座はコロナ禍のため開催はしない。ただ、鈴鹿市学官連携の講習会の開催を進める。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>鈴鹿市との官学連携プログラムは計画通り行えた。学生参加、新聞に広報され、成功裏に終わった。参加者は定員を超え、参加者の満足度もたかった。また、学生はこの機会を利用して卒業研究を進めていった。</p>

第 1 - 2 期の活動計画の達成状況

重点分野 11：各学科教育の特色（医療福祉学専攻）						
<p>【基本方針: 1】 面倒見の良い、魅力ある大学</p> <p>【基本方針: 5】 医療・福祉の総合大学化の完成と改組</p> <p>【中期計画】 2021 年度-2026 年度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善 2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み 3. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導 4. 市民公開講座の計画・実施 						
<p>責任者: 医療福祉学科長 分担者: 大井一弥 (国家試験対策 WG 副委員長)、村田尚久 (大学事務局長)、宮崎和裕 (就職・キャリア支援課長)、松永ひとみ (教務課長) 事務局: 教務課</p>						
	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度
中期計画 1.	→					→
中期計画 2.	→					→
中期計画 3.	→					→
中期計画 4.						→
中期計画 5.						
2022 年度活動計画						
対応する中期計画項目	活動計画内容					
1 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善	<p>一人ひとりの教員が「とことんできるまで教育」のねらいをよく理解し、保護者の期待である、留年も休学もすることなく 4 年間で国家試験に合格し卒業するという観点を尊重し、どの種の授業であれ常に国家試験を意識した内容を展開することで期待に応えていく。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 ほとんどの講義系科目においては、国家試験の内容にふれることとし、また、国試の頻出傾向のある箇所は重点的にそれ以外の箇所は薄くというスタイルですすめてきた。</p>					
2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み	<p>国家試験合格を中心命題に据え、より効果的な学習支援の方策として、学生の意見や要望を幅広く把握し分析するとともに、一人ひとりの理解度や到達度に応じた対応を心がける。また、主体性をもって学習に取り組む姿勢(やらされている学修から自らの意志で学習する気概)作りを 1 年時から指導していく。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 毎講義後にリアクションペーパーをとる。1 年時より主体的に講義や演習に臨む姿勢が身につくように指導を展開している。徐々に効果が出始めている。</p>					

<p>3. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導</p>	<p>教育目標、カリキュラム・ポリシーを踏まえ、一人ひとりの習熟度に沿いつつ、ラーニングボックス等の積極的な利用、学内外の模擬試験の実施を通して、社会福祉士、精神保健福祉士ともに合格率75%を目標とする。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>昨年度の失敗を教訓に福祉関係職種に就く予定のない者へ記念受験を辞退するように働きかけたところ、数名が応じた。また、受験する者には模試や特別講座の参加などを働きかけている。結果、社会福祉士合格率80%を達成できた。</p>
<p>4. 市民公開講座の計画・実施</p>	<p>国際交流の意味からも外国人を招聘しての福祉に関する公開講座を年度末に計画している。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>1月末に海外の研究員を招聘しての講演会の実施を計画し、コロナウィルスの蔓延が拡大すると見送る予定であったが幸いにも拡大せず多くの参加があり実施できた。</p>

第1－2期の活動計画の達成状況

重点分野 11：各学科教育の特色（臨床心理学専攻）						
<p>【基本方針:1】 面倒見の良い、魅力ある大学</p> <p>【基本方針:5】 医療・福祉の総合大学化の完成と改組</p> <p>【中期計画】2021年度-2026年度</p> <p>1. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善 2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み 3. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導 4. 市民公開講座の計画・実施</p>						
<p>責任者: 医療福祉学科長 分担者: 臨床心理学専攻長、大井一弥（国家試験対策 WG 副委員長）、村田尚久（大学事務局長）、 宮崎和裕（就職・キャリア支援課長）、松永ひとみ（教務課長） 事務局: 教務課</p>						
	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
中期計画 1.						▶
中期計画 2.						▶
中期計画 3.						▶
中期計画 4.						▶
中期計画 5.						
2022年度活動計画						
対応する中期計画項目	活動計画内容					
1. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善	<p>①専攻学生全員が外部実習に参加できるよう、また全員が学部における公認心理師受験資格を得られるよう目指す。 □達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 単位取得に手間取る学生は各学年で散見されるものの、ほとんどの学生は順調に外部実習参加や受験資格取得に進むことができた。</p> <p>②講義内で小テスト、またはグループワークの場をこれまでより多くすることで、学力および社会性を高める。 □達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 各教員が、講義内での小テスト・グループワークの機会を増やした。</p> <p>③個々の学生に応じた到達目標を立て、学生の力を伸ばすよう方法を吟味する。 □達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 3～4年生に対しては、各ゼミナール担当教員が個々に応じた指導を行った。1～2年生に対しては、学年担任が面談を重ね、</p>					

	<p>学生の目標や学修状況を確認して対応した。</p>
<p>2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み</p>	<p>①1年次における「臨床心理学の基礎」「医療人底力実践Ⅰ(学科プログラム)」で、大学での学び方について支援を行う。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 「臨床心理学の基礎」ではレポートの書き方やノートを取り方、文献の探し方・読み方などの指導を行った。「医療人底力実践(学科プログラム)」では、特に本学の特徴である「チーム医療」の意識を高める講義・レポート課題を提示した。</p> <p>②現場の職員や特別講師を招聘し、実践学修への意欲を一層高めることを目指す。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 少年鑑別所職員、児童福祉施設職員、アートセラピーの専門家などを招いた。受講学生からの評価は非常に高かった。</p>
<p>3. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導</p>	<p>①公認心理師資格試験(2021年度)の全国合格率が58.6%であったので、本学修了生は70%を目指す。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 2021年度の修了生における2022年度試験合格率は70%(10名中7名)と目標に到達できた。</p> <p>②基礎的知識を高めることができる学びの機会を、指導教員を中心に提供する。 □達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 講義内では、資格試験問題の出題基準を意識した内容を取り扱った。また他科目とのつながりを強調して講義を行うなど、学生が学修内容を適切に積み上げることができるよう、教員間での連携に努めた。</p> <p>③模擬試験を受験するよう促す。 □達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 大学院生や修了生に模擬試験を受けるよう、また合格ラインに到達するまで学修を深めるよう促した。その結果、4回の模試のうち3回以上を受験した修了生は69%(13名中9名)、2回以上受験した者は85%(13名中11名)に至った。</p>
<p>4. 市民公開講座の計画・実施</p>	<p>COVID-19の感染拡大が継続する恐れがあるため、今年度についても自粛した。</p>

第 1 - 2 期の活動計画の達成状況

重点分野 11：各学科教育の特色（鍼灸サイエンス学科）						
<p>【基本方針: 1】 面倒見の良い、魅力ある大学</p> <p>【基本方針: 5】 医療・福祉の総合大学化の完成と改組</p> <p>【中期計画】 2021 年度-2026 年度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善 2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み 3. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導 4. 市民公開講座の計画・実施 						
<p>責任者: 鍼灸サイエンス学科長 分担者: 大井一弥 (国家試験対策 WG 副委員長)、村田尚久 (大学事務局長)、宮崎和裕 (就職・キャリア支援課長)、松永ひとみ (教務課長) 事務局: 教務課</p>						
	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度
中期計画 1.	→					→
中期計画 2.	→					→
中期計画 3.	→					→
中期計画 4.	→					→
中期計画 5.						
2022 年度活動計画						
対応する中期計画項目	活動計画内容					
1. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善	<p>1 実習・実技教育の向上のための取り組み デジタル教材を活用して、収録した動画による学習、到達目標を確認するアクティブラーニング形式等を実施し、深い学習・技術の習得の向上をはかる。 2021 年度、デジタルホワイトボードおよび備品が設置された。今年度は、放送設備（音響機器）の入れ替えを行い、実技実習教育の活用を始める。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 設備の入れ替えの工事が完了し、教育活用をしている。</p> <p>2 キャリア教育の充実 昨年度までに専門教育「鍼灸への誘い」による鍼灸師の職業観や将来像涵養を目標とした教育はほぼ完成した。下記、教育講演開催とキャリアプランの指導を強化する。 ① キャリア教育講演を年 1 回開催する。 ② キャリアプランを作成させ、個人面談での助言・指導に活かす。(2~4 年生)。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 ①12 月に卒業生の宮本先生によるキャリア講演を実施。</p>					

	<p>②鍼灸師教員全員で担当。鍼灸師となるあるいは東洋医学をすることになったきっかけや経緯を紹介しながら、伝統医学・東洋医学・スポーツ・美容・中医師・漢方・統合医療・海外の鍼灸・薬膳・留学などのテーマに基づき、歴史・現状・将来像について解説した。</p> <p>3 病院・クリニックへの就職支援 昨年度の病院・クリニックの鍼灸治療の融合と協力の実態調査に基づき、継続して卒業生の病院・クリニックへの就職支援に取り組む。適応可能な希望者を病院・クリニックへ就職させる。 ■達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 2名が病院・クリニックへの就職が内定。</p> <p>4 鍼灸スポーツトレーナー学専攻のフィールドワーク実施 スポーツトレーナー学および資格試験の知識と技術をアウトプットするフィールドワークを実施する。昨年度は、コロナ禍の影響で活動は中止された。今年度は、特別講義を含めた内容で調整中である。 ■達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 三重ホンダヒート、ヴィアティン三重女子サッカー、奈良県立御所実業高校ラグビー部にて実施。トップアスリートの練習方法・ケア、トレーナー活動などを学習した。</p>
<p>2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み</p>	<p>1 学習目標：進級率 90%以上 <input type="checkbox"/>達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 2年生進級率 89.1%、3年生進級率 100%、4年生進級率 100%であった。</p> <p>2 学習支援内容 学生との関わりとコミュニケーションを重視して下記内容を実施。 ① 出席および体調管理のチェックと指導 ② 課題提出状況の把握と指導 ③ 個人面談 ④ 定期試験前後のフォロー ⑤ learning Box の活用 ■達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 授業態度・修学状況・成績などの情報に基づいて、早期から面談を実施。成績下位および欠席不良の学生には反復して行い、改善が乏しい場合は支援者に理解してもらい双方からのかかわりを強化した。</p> <p>3 意欲向上・交流促進のためのプログラムを計画 通年で開催してきた球技大会、取穴大会を含め、ワクチン接種後、感染状況が落ち着いた頃を見計らって実施を検討。 ■達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 7月に球技大会を実施した。</p>
<p>3. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導</p>	<p>1 受験者あたりの合格率：100%、 <input type="checkbox"/>達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 はり師合格率 92.6%、きゅう師合格率 100%であった。</p>

	<p>2 入学者あたりの合格率 2022年度 75%を目標とする。 □達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 はり師ストレート合格率 70.6%、きゅう師ストレート合格率 76.5%であった。</p> <p>3 指導内容 教員が、学生全員を合格に導く熱意と気概を持ち、下記指導を徹底する。</p> <p>① 1年次より国家試験への危機感を高め、出題傾向を意識した授業を実施。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 全教員が気概を高め、国家試験を意識した授業を実施している。</p> <p>② 対策授業の指導を強化し、要点文集を段階的に暗記させ、全て暗記するまで確認試験を繰り返す。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 3、4年生の国家試験対策授業にて実施した。4年生の底上げになった。</p> <p>③ 成績不振者を月1回の模擬試験の結果から抽出し、対策授業とは別に補講を実施する。補講では毎回、課題を暗記させ、口頭試問によりアウトプットさせる。これを反復学習することにより、習慣と知識を定着させる。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 4年生は実力テストの結果から、1～3年生は期末テストの結果から60点未満の学生に対し、補講およびトコトン教育を行い、課題、口頭試問、小テストを実施、後期は再試験前にも実施することにより進級率を高めた。</p> <p>④ learning Box の活用して隙間時間を利用した学習を促進。 □達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 国試該当科目において活用した。</p> <p>⑤ モチベーション維持・向上のために、定期試験後や補習終了後に個別面談を行い、学生との関わりとコミュニケーションを重視して国家試験まで一緒に取り組む。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 国試対策委員による個別面談を実施、それに加えて担当教員を割り振りして学習状況、小テスト確認を行った。</p>
4. 市民公開講座の計画・実施	<p>ワクチン接種後、感染状況が落ち着いた頃を見計らって実施を検討。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 11月に日本薬膳学会学術総会にて市民公開講座を実施した。</p>

第 1 - 2 期の活動計画の達成状況

重点分野 11：各学科教育の特色（救急救命学科）						
<p>【基本方針: 1】 面倒見の良い、魅力ある大学</p> <p>【基本方針: 5】 医療・福祉の総合大学化の完成と改組</p> <p>【中期計画】 2021 年度-2026 年度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善 2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み 3. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導 4. 市民公開講座の計画・実施 						
<p>責任者: 救急救命学科長 分担者: 大井一弥（国家試験対策 WG 副委員長）、村田尚久（大学事務局長）、宮崎和裕（就職・キャリア支援課長）、松永ひとみ（教務課長） 事務局: 教務課</p>						
	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度
中期計画 1.						▶
中期計画 2.						▶
中期計画 3.						▶
中期計画 4.						▶
中期計画 5.						
2022 年度活動計画						
対応する中期計画項目	活動計画内容					
1. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善	<p>①カリキュラムマップを有効活用し、学生自身の学修の促進を行う。 ◆成績不振者の早期発見につとめ担任による学修指導時にカリキュラムマップを確認しながら学生自身の学びのプロセスの可視化を行いきめ細かな指導を行う。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 前期・後期のはじめの授業時にカリキュラムマップを学生に示し、学びのプロセスを自覚させるとともに将来のキャリアデザインを考える場を提供している。また、成績不振学生に対するは教員との面談時に積極的にカリキュラムマップを活用して学生相談や学修指導を行っている。</p> <p>②授業評価アンケートの活用 ◆学生からの授業アンケートの回収率を高めると共に、その結果について詳細な分析を行い授業内容の改善を図り、教育の質向上につなげる。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 授業評価アンケート実施期間中の授業内においてアンケート回答の時間を設けて学生からの授業アンケートの回収率を高</p>					

	めた。
2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み	<p>①入学前教育（推薦入学予定者で希望する者）とリメディアル教育の充実を図り、入学生の学習能力の向上につなげる。 ◆「すべての科目の成績は国語で決まる」といってもよく、救急医療に関連するテキストや授業でよく見る漢字、覚えておきたい基本の漢字・用語のドリル教材を活用して国語力の向上を図る。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 授業において国語力の向上を図るために医療に関する漢字の読み書きのドリル教材を活用した授業を行った。</p> <p>②授業の出席状況および健康管理を行う。 ◆担当教員が学生に対して学修指導が必要と判断した場合、個人面談を早期に行い状況の改善を図ると共に学習支援を行う。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 担任制により学生の指導を行う体制を整え、授業の出席状況や芳しくない学生の状況を教務課と連携して早期に把握して当該学生に対して担任から連絡を行い、面談を実施し学生生活の改善などの助言を行っている。</p>
3. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導	<p>①1年次から国家試験を意識させた授業を行う。 ◆医療人底力実践Ⅰ（学科プログラム）において国家試験の概要について学修する機会を設ける。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 「医療人底力実践Ⅰ」（学科プログラム）の授業において、救急救命士国家試験の概要についての学修を実施した。</p> <p>◆過去に出題された国家試験問題をできるだけ多く触れることで学力が向上することから、当該科目の範囲に該当する出題分野の問題に取り組むことや、授業開始前にポストテスト等を行う。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 「救急医学概論」の授業において過去5年間に出版された救急救命士国家試験問題を解かせた。また、授業開始時に国家試験問題の正文について○×で解答するポストテストを実施した。</p>
4. 市民公開講座の計画・実施	<p>鈴鹿市消防本部・鈴鹿市消防団と連携して『2022年救急・健康フェア』を9月11日で行うことで、市民に本学科の研究、教育内容を紹介すると共に三重県の災害・救急医療のさらなる充実と地域防災力の向上に貢献することを目指す。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 鈴鹿市消防本部・鈴鹿市消防団と連携して『2022年救急・健康フェア』を9月11日で行った。市民公開講座については3月25日開催した。 講師：東川正宗教授 講演タイトル：「上手な小児救急のかかり方ーかかりつけ医を持とうー」と題して</p>

第 1 - 2 期の活動計画の達成状況

重点分野 11：各学科教育の特色（臨床工学科）						
<p>【基本方針: 1】 面倒見の良い、魅力ある大学</p> <p>【基本方針: 5】 医療・福祉の総合大学化の完成と改組</p> <p>【中期計画】 2021 年度-2026 年度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善 2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み 3. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導 4. 市民公開講座の計画・実施 						
<p>責任者: 臨床工学科長 分担者: 大井一弥 (国家試験対策 WG 副委員長)、村田尚久 (大学事務局長)、宮崎和裕 (就職・キャリア支援課長)、松永ひとみ (教務課長) 事務局: 教務課</p>						
	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度
中期計画 1.	→					→
中期計画 2.	→					→
中期計画 3.	→					→
中期計画 4.		→				→
中期計画 5.						
2022 年度活動計画						
対応する中期計画項目	活動計画内容					
1. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善	<p>①大学入学時に Early Exposure (病院見学、医療機器操作体験) を行い、初年次教育の充実を図る。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 計画されていた病院見学が新型コロナウイルス感染症のため中止となったが、学内で医療機器操作体験、本学卒業生2名による特別講演を実施した。 また、臨床工学科教員4名のキャリア講演会を開催し、臨床工学技士業務と進路について説明を行い、初年次教育の充実を図った。</p> <p>②臨床工学技士の業務拡大を見据えた新カリキュラムについて学科内でカリキュラム検討委員を選出し、検討を行う。 <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 教育質保証委員会から選出されたカリキュラム検討委員により、新カリキュラムの最終検討が行われ、令和5年度の入学生から適用される「新臨床工学技士養成所カリキュラム」を完成させた。</p>					

	<p>③4年前期・後期に開講される特別演習科目を学科全教員で担当し、国家試験対策を充実させる。 ■達成(100%) <input type="checkbox"/> ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/> 遅れ有(50%) <input type="checkbox"/> 大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 学科教員全員で国家試験対策用の教材(臨床工学科ハンドブック)を作成して学生に配布しており、4年前期・後期に開講している「臨床工学特別演習Ⅰ～Ⅴ」でこの教材を活用した国家試験対策を行っている。</p> <p>④実習科目の実技試験は、ルーブリックを用いて評価を行い、実習科目の総合評価に反映させる。 <input type="checkbox"/> 達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/> 遅れ有(50%) <input type="checkbox"/> 大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 生体代行装置学実習Ⅰ、Ⅱにおける実技試験の評価表を完成させた。この評価表を用いて実技試験の評価を行い、総合評価に反映させているが、評価表を学生に開示できていない。</p> <p>⑤学修サポートシステムの教員活用を進める。 <input type="checkbox"/> 達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/> 遅れ有(50%) <input type="checkbox"/> 大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 Sums-PO および learning BOX を活用した資格試験対策のコンテンツが準備されており、その他活用事例についても学科内で紹介されている。 通常の講義や実験・実習科目についても、授業資料やオンデマンドの講義動画が学修サポートシステムにアップロードされている。</p>
<p>2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み</p>	<p>①GPAに基づいた学習指導計画を図ると共に、GPA上位の学生を対象に早期の進路活動を促す。 ■達成(100%) <input type="checkbox"/> ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/> 遅れ有(50%) <input type="checkbox"/> 大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 2年次後期にGPAが1.5以下の学生に対して学修指導を行っている。また、GPA上位の学生には、4年次の4月から就職活動開始の許可を与えている。</p> <p>②欠席の多い学生に対して、担任から早期に連絡を取り、状況を把握する。 ■達成(100%) <input type="checkbox"/> ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/> 遅れ有(50%) <input type="checkbox"/> 大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 教務課からの資料にもとづき、欠席回数が多い学生に対して、各学年の担任教員が連絡を取って指導を行っている。</p> <p>③大学祭における学科発表の支援強化を行う。 ■達成(100%) <input type="checkbox"/> ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/> 遅れ有(50%) <input type="checkbox"/> 大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 大学祭担当教員を増員し、学科発表の支援強化を行った。</p> <p>④学生へのボランティア活動情報を提供し、自治体が行うイベントへ参加・協力(展示等)を促す。 ■達成(100%) <input type="checkbox"/> ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/> 遅れ有(50%) <input type="checkbox"/> 大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 ボランティアセンター運営委員からボランティア情報提供を行っている。 また、救急・健康フェア2022では、教員と学生ボランティアで、「緊急時に役立つLEDライトを作ってみよう」というテーマで出展した。</p>

<p>3. 各資格試験の合格率及び入学あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導</p>	<p>①新卒学生の100%合格を目指し、入学あたりの合格率は90% (48名/53名) を目指す。 ■達成(100%) <input type="checkbox"/> ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/> 遅れ有(50%) <input type="checkbox"/> 大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 新卒学生の合格率は100% (50名合格/50名受験)、入学あたりの合格率は90% (45名合格/50名入学)</p> <p>②GPA及び模擬試験によるクラス編成を行い、成績不振の学生を対象に前期から自習の義務付けと対策講義への出席を促す。 ■達成(100%) <input type="checkbox"/> ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/> 遅れ有(50%) <input type="checkbox"/> 大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 模擬試験の成績から、「Cクラス」に認定された学生は、国家試験対策室での自習の義務付けと対策講義への出席を促した。</p> <p>③各クラスの習熟度に対応した国試対策や学修サポートを行う。 ■達成(100%) <input type="checkbox"/> ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/> 遅れ有(50%) <input type="checkbox"/> 大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 模擬試験の成績とGPAから、「Aクラス」、「Bクラス」、「Cクラス」の3つのクラスに分類して国家試験対策を実施している。</p> <p>④頻出問題と必要最低限な基本問題の演習を繰り返す。 ■達成(100%) <input type="checkbox"/> ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/> 遅れ有(50%) <input type="checkbox"/> 大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 最低限必要な項目を記載した「臨床工学科ハンドブック」を学生に配布し、「臨床工学科ハンドブック」を活用した対策講義を行うことで、頻出ポイント・必須問題の指導を行っている。</p> <p>⑤各教員が国家試験の専門分野に精通し、国家試験全体も把握している。 ■達成(100%) <input type="checkbox"/> ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/> 遅れ有(50%) <input type="checkbox"/> 大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 本学科では、国家試験の学内採点のために、模範解答を全教員で作成している。 また、毎年3月に実施される臨床工学技士の国家試験問題を回覧し、頻出問題の抽出作業を行っているため、教員全員が国家試験の出題傾向について把握している。</p> <p>⑥国家試験サポートソフトウェアの教員活用を進める。 ■達成(100%) <input type="checkbox"/> ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/> 遅れ有(50%) <input type="checkbox"/> 大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 国家試験サポートソフトウェアの「過去問活用ソフト」を用いた模擬試験の作成と採点を行い、学生全員の模擬試験の成績の管理を行っている。また、「過去問活用ソフト」で作成した模擬試験の解説を学科教員全員で実施している。</p> <p>⑦早期から国家試験への意識を高めるために、3年次から全国統一模擬試験の受験を促す。 ■達成(100%) <input type="checkbox"/> ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/> 遅れ有(50%) <input type="checkbox"/> 大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 3年生を対象に、全国統一模擬試験の受験を促し、1月末に実施される第3回統一模擬試験を受験させた。</p>
<p>4. 市民公開講座の計画・実施</p>	<p>①新型コロナウイルス感染症のため未定であるが、開催が可能な場合は、医学・工学・生体医工学・臨床工学等に関する市民公開講座を行う。 ■達成(100%) <input type="checkbox"/> ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/> 遅れ有(50%) <input type="checkbox"/> 大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容</p>

	2月19日(日)に、本学臨床工学科の桑野教授による「カレンダーの数理」のテーマで公開講座を開催した。
--	--

第 1 - 2 期の活動計画の達成状況

重点分野 11：各学科教育の特色（医療健康データサイエンス学科/医用情報工学科）						
<p>【基本方針: 1】 面倒見の良い、魅力ある大学</p> <p>【基本方針: 5】 医療・福祉の総合大学化の完成と改組</p> <p>【中期計画】 2021 年度-2026 年度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善 2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み 3. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導 4. 市民公開講座の計画・実施 						
<p>責任者：医療健康データサイエンス学科長/医用情報工学科長 分担者：大井一弥（国家試験対策 WG 副委員長）、村田尚久（大学事務局長）、宮崎和裕（就職・キャリア支援課長）、松永ひとみ（教務課長） 事務局：教務課</p>						
	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度
中期計画 1.	—					▶
中期計画 2.	—					▶
中期計画 3.	—					▶
中期計画 4.		—				▶
中期計画 5.						
2022 年度活動計画						
対応する中期計画項目	活動計画内容					
1. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善	<p>①教育内容の充実では、新学科のカリキュラムではデータサイエンスの基礎となるプログラミング能力を身につけさせるため、多数の授業科目でコンピュータ演習または実習を行いながら教育することになる。そこで、今年度はコンピュータ実習を含んだ授業科目を 15 科目以上に増やすための準備を行う。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 今年度コンピュータ実習を含んだ授業は、20 科目となり、目標以上の科目数となった。</p> <p>②教育方法・教授方法の改善としては、SUMS-PO、learning Box などのオンライン教材を利用するための教材作成を行い、5 科目以上でオンライン教材の作成を実施し、教育効果の高いオンライン教材の作成に関する意見交換を実施する。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 オンライン教材を使用した授業は、18 科目となり、目標の 2 倍以上となった。</p>					

<p>2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み</p>	<p>①効果的な学習支援としては、授業の出席状況とレポートの提出状況を把握し、授業の理解状況を Sums-PO、learning Box などの学習支援システムを使用し、学期の途中で理解度を把握する。そして、成績不振者に対しては、個別学習支援を行い、トコトン教育を実施する。</p> <p><input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 多くの授業科目で、学習支援システムにおいて出席状況とレポートの提出状況を把握し、成績不振者に対して、個別学習指導を行った。</p>
<p>3. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導</p>	<p>①本学科の学生の就職先は幅広いIT分野またはデータサイエンスの利用分野であり、情報処理の基礎を身につけていることが必要である。そこで、情報処理技術者試験の「ITパスポート」(国家試験)を2年生の後期までに数年後には入学者あたりの合格率80%(令和2年度の全国での平均合格率50.8%)を目指す。</p> <p><input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 「ITパスポート」(国家試験)の受験に対応した授業科目「情報処理技術セミナーⅠ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ」の担当者間での話し合いにより、授業の分担、教育方法・目標の共有を実施した。また、学習支援システムを活用した国家試験問題の学習システムを約半分まで作成し、教育体制の整備がほぼ実現した。</p>
<p>4. 市民公開講座の計画・実施</p>	<p>①三重県教育委員会が主催する「まな便(まなびの宅配便)」に、本学科の学生が中学生や高校生を中心に教えるコンピュータ講習会(EXCELを使用して種々のグラフを作成など)に登録する。</p> <p><input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 「まな便」に登録し、種々のグラフを作成するスキルを学生は身に付けたが、新型コロナの影響などにより、学生が中学生や高校生に教える要請が来なかった。</p>

第 1 - 2 期の活動計画の達成状況

重点分野 11：各学科教育の特色（薬学科）						
<p>【基本方針: 1】 面倒見の良い、魅力ある大学</p> <p>【基本方針: 5】 医療・福祉の総合大学化の完成と改組</p> <p>【中期計画】 2021 年度-2026 年度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善 2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み 3. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導 4. 市民公開講座の計画・実施 						
<p>責任者：薬学科長 分担者：大井一弥（国家試験対策 WG 副委員長）、村田尚久（大学事務局長）、宮崎和裕（就職・キャリア支援課長）、松永ひとみ（教務課長） 事務局：教務課</p>						
	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度
中期計画 1.	→					→
中期計画 2.	→					→
中期計画 3.	→					→
中期計画 4.						→
中期計画 5.						
2022 年度活動計画						
対応する中期計画項目	活動計画内容					
1. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善	<p>① 学生および保護者の一義的な期待は、留年／休学せずに薬剤師国家試験にストレートで合格することである。授業において国家試験を意識した内容も補足するように教員に求める。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 2021 年度はほぼ 60%のストレート合格率となっている。2022 年度も、現在までの薬学部国家試験の全国模試において、昨年と比較しても好調な結果を残している。</p> <p>② 低学年（特に 1 年生）では、学修に必要な情報処理能力（履修登録、遠隔授業出席、課題提出、SUMSPO や e-ラーニングなどの使用について）を身につけているかについて、学生個々の状況を担任が確認（出席、課題提出などで判別）し、情報処理の問題による学修の遅れを出来る限り早期に対応していく。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 低学年について、薬学科では各授業の終了後に ESS システム（e-ラーニングシステム）にて小テストを学生に課して授業の復習をさせている。実施状況を薬学教育センターが管理して、実施率の低い学生では担任にその状況を提示し、面談など学</p>					

	<p>生指導の資料として提供している。</p> <p>③ 低学年（特に1年生）で、学修環境の整備（学修習慣を身に付ける、学修技能の習得、予習復習のためのeラーニング等の整備）し、学修成果の確認を定期的実施する。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 1～3年生の低学年において、ESSシステムを用いた授業の振り返りを行わせているが、その振り返りの問題は定期的（およそ半年ごと）にまとめて繰り返しの復習演習を行っている。</p> <p>④ 大学教育の中で、医療現場だけでなく社会ニーズに対応できる薬剤師を養成することを目指す。各教員は薬剤師業務に必要な幅広い知識・態度・技能を身につけるための教育を学生に提供するように促す。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 薬学部の教育において、各教員は臨床現場での薬剤師に必要な知識・知識・技能を取得させるべく、講義、演習、実習を実施している。これらのことについては種々委員会にて経過や結果が報告されている。</p>
<p>2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み</p>	<p>① 教育ツールの提供のほか、学生が質問しやすい現場環境作りに取り組む。特に低学年層には、教育ツールを取扱う知識や質問メールの作法などの導入教育（薬学教育だけではなく常識モラルの教育）を実施していく。そのためには、教育専門部門である薬学教育センターを有効活用していく。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 これまで、薬学科ではプレイスメントテストを独自に実施してきたが、2023年度より、全学のプレイスメントテストに参加し、1年次からラーニングボックスの利用に対する早期の手技習得を目指す。薬学部では、ESSシステムの利用を全ての科目で実施しており、また、現在、全学生がzoom利用を出来ている状況を確認している。さらに、2023年度から学生の教育ツール利用に不自由がないように、電子学習や電子事務手続きなどの手技の習得を支援する委員会の創設を検討している。これらの支援は、薬学教育センターが中心的役割を演じている。</p> <p>② 高学年では、成績下位層に対して各教員が幅広く学修支援を行い、学力を向上させている。中上位層には、向学心の醸成とモチベーション維持のため各教員が教育指導を実施しており、自学自習のためのコンテンツ提供も行っている。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 6年生に対する薬学特別演習（国家試験対策に相当する6年間の学修成果の振り返り、まとめを行う科目）において、上位者と下位者で授業を分けて実施する時間を設けている。また、下位層に対する補助的な演習を課しており、学科会議にて授業出席や成績に関してきめ細かくデータを報告して、担任教員の学生指導のサポートを行っている。</p>
<p>3. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導</p>	<p>1, 2に基づき、学修のためのコンテンツ（学修ツール、授業フォローコンテンツなど）を提供し、知識の定着を図る。特に低学年にはそれらのコンテンツを正しく利用できるよう指導しつつ学修環境を整備し、低学年での学力の底上げを行う。</p> <p>① 本学の薬剤師国家試験合格者の成績を指標として、4年次</p>

	<p>CBT の合格率が 100%、各学生の得点率が 70%以上になるような教育体制を構築していく。</p> <p><input type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input checked="" type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>本年度の CBT 受験対象学年の 4 年生においては授業演習や模試等での成績で不振傾向がみられている。本試、再試に対して前年度以前と比べて強化した対策を実施・計画している。</p> <p>② 薬剤師国家試験の目標は、ストレート合格率の向上とし、薬学部新設大学で上位に入る 65%を当面の到達点とする。</p> <p><input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>本年度 6 年生の薬剤師国家試験対策模試の成績は、昨年度と比べて上回り、全国平均と比べてもわずかに上回っており、薬剤師国家試験に向かって期待の出来る経過が認められている。</p>
4. 市民公開講座の計画・実施	<p>一般市民向けの公開講座を毎年、継続的に実施し、大学の魅力を広く発信し続ける。薬学科広報の一環として、企画広報課および入学課との連携を強化する。</p> <p><input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>コロナ禍が始まってから、初めて再開された講演会として 2022 年 11 月 26 日に一般市民向けの公開講座が実施された。タイトルは「健康的に年を重ねるために 一認知症の理解を深める― (演者：薬学部三輪高市教授)」。鈴鹿市全域から 127 名の参加があり、アンケート結果も好評な意見が多かった。</p>

第 1 - 2 期の活動計画の達成状況

重点分野 11：各学科教育の特色（看護学科）						
<p>【基本方針:1】 面倒見の良い、魅力ある大学</p> <p>【基本方針:5】 医療・福祉の総合大学化の完成と改組</p> <p>【中期計画】2021年度-2026年度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善 2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み 3. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導 4. 市民公開講座の計画・実施 						
<p>責任者:看護学科長 分担者:大井一弥（国家試験対策 WG 副委員長）、村田尚久（大学事務局長）、宮崎和裕（就職・キャリア支援課長）、松永ひとみ（教務課長） 事務局:教務課</p>						
	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
中期計画 1.	→					→
中期計画 2.	→					→
中期計画 3.	→					→
中期計画 4.	→					→
中期計画 5.						
2022年度活動計画						
対応する中期計画項目	活動計画内容					
1. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善	<p>①カリキュラム・ポリシーに沿ったカリキュラムマップの活用度を向上させ、学生自身による振り返りを支援し、学びの促進への方向づけをする。</p> <p>◆オリエンテーションでの具体的説明と前・後期での担当学生との面談時に確認する。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>4月のオリエンテーションで、教育目標とディプロマポリシー、カリキュラム構成と授業進度、所属学年の位置づけと学習内容とのつながりを説明している。学生には各年度の目標を明確するために、SUMS-POの学生カルテの「学習目標」に入力するよう勧めている。担当教員とは、学生と共にカリキュラムマップを用いての成績確認と今年度の学生の目標および履修科目状況を確認している。</p> <p>◆これまで何を身につけ、何が課題で、これから何を学んでいくのかを学生が主体的に理解できるようにする。</p> <p>□達成(100%)■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>卒業時に必要とされる看護技術の到達度リストを1年後期に</p>					

配布して修得が必要な項目を具体的に把握できるようにし、3・4年の各看護学実習において経験内容を確認している。

②多様なメディア（learning Box、Google フォーム等）を用いてアクティブラーニングを推進する。

各科目講義内にてメディアを用いたアクティブラーニングは、ほぼ全科目で実施しており、学生も円滑に使用できている。

◆反転授業を取り入れる。

□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)

上記達成状況の具体的内容

看護援助論等、看護技術演習を含む科目において、動画教材を活用した事前学習課題を課し、技術の根拠・手順や留意点を把握したうえで演習を行うといった反転授業を取り入れている。

◆学生の理解度を高めるため、各回の授業での小テストやリアクションペーパー等を導入し、理解度の確認をする。

□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)

上記達成状況の具体的内容

各科目の単元ごとの理解度確認のため、ほぼ全科目で小テストやリアクションペーパーを用いることを実施している。

③授業評価アンケートに対応し、授業内容の改善を推進する。

◆アンケート回収率を高める。

□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)

上記達成状況の具体的内容

各セメスター末には、各科目責任者からアンケート協力の呼びかけを行っている。

◆学生のニーズに応える教育内容と教育方法を具体的に実施する。

□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)

上記達成状況の具体的内容

次年度のシラバス作成時には、授業評価に記載された内容を参考にして「評価結果の活用欄」に改善策を明記し、具体的な改善を続けている。

④「教育の質に係る客観的指標」と看護学科の現状の教育内容を精査し、必要とされる内容を組み込む。

◆「教育の質に係る客観的指標」の内容を精査し、看護学教育内容との適応状態、不足内容を点検する。

□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)

上記達成状況の具体的内容

客観的指標としては、在校生の各科目の不合格者数と特別教育実施者数及び留年者数、ならびに昨年度大学が初めて実施した卒業生（2018年度卒業生）対象に在学中の教育目標・授業などに関するアンケート結果がある。科目担当教員・担任教員・教務委員会・教育質保証委員会にて不合格者や留年者への対応は個別指導を中心として体制を整えて実施しており、教育内容の不足状況については、精査が不十分であるが、卒業生アンケート結果も参考にして今後見直して行く予定である。

2022年度には、指定規則改正に合わせカリキュラムを行い、1年次に専門科目として「コミュニティーケア入門」を行って見えてきた課題を、次年度に活かしていく予定である。

<p>2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み</p>	<p>①成績不振者、休学者への学修支援計画の継続、評価、改善を行う。</p> <p>◆学科教務委員会、学生委員会、学年担当と担当教員が連携して成績不振者および休学者の学修支援計画を作成する。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>科目習得状況や学習態度に課題がある場合には、科目担当者・担任教員や教務委委員、実習・演習委員が早期に現状を把握して情報を共有している。その上で、担任教員が必要時に学生と面談を行い、学習面と生活面の問題を明確化して、今後の学習支援計画や生活管理上の指導を行っている。定期試験で不合格となった学生には、科目担当教員からフィードバックを行ってもらい、再試への学習指導を行ってもらっている。休学学生には休学開始前に担任教員が休学中の過ごし方を相談しており、担任教員は個々の状況に合わせてながら、休学中の学習支援を行っている。</p> <p>◆学修支援計画の評価と改善を行う。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>複数科目で特別教育の対象となり進級してきた学生は、上位学年でも同じことを繰り返す傾向が強く、悪循環を繰り返しているという反省を踏まえて、2022年度からは専門基礎科目および専門科目については、特別教育の実施を原則2科目までとした。</p> <p>成績未確定者の状況は、科目担当者、担任教員、教務委員会が情報共有し、担任教員が当該学生の学習支援計画を立案して教育質保証委員会に報告する。教育質保証委員会は、学生の学習状況と生活状況から特別教育に入るかどうかを判断して、科目担当教員への特別教育の依頼し、その結果も含めて今後の学習内容を評価している。</p> <p>②入学前教育（推薦入試予定者で希望者）とリメディアル教育を充実させ、入学生の学習能力を向上する。</p> <p>◆現状を評価する。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>入学時のプレメントテストにて高校までの学習内容習得状況の判断を行い、必要な学生にはリメディアル教育を勧め、その後のリメディアル教育に入ってもらい。欠席が目立つ場合には担当教員との面談で学習姿勢等について指導も行っている。</p>
<p>3. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導</p>	<p>①看護師国家試験合格率 100%を目指し、入学者あたりの合格率では、90%を目標とする。</p> <p>◆1年次から系統立てた国試対策を実施し、評価する。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>2022年度は、低学年（1年、2年次）系統的な知識の修得をはかるための学習会を企画し、形成評価を行った。3年生前期は疾病の成り立ちと回復の促進に関連するセミナーを実施した。後期は臨地実習を妨げない時期に、前期で受けた模擬試験の振り返りとまとめ学修を促し、学習習慣の定着に努めた。4年生は定期的なセミナーと模擬試験を実施、11月以降はハイリスクグループを対象とした学習支援を行った。</p> <p>第112回看護師国家試験（2023年2月）を85名が受験し84名が合格（合格率98.8%）した。2019年度入学生91名中、今回受験し合格したのは79名で、入学者当たりの合格率は</p>

	<p>86.8%であった。 また既卒者（2018年度入学）1名も受験し合格した。</p> <p>②保健師国家試験合格率100%を維持する。 ◆看護師国家試験と並行しながら、4年次での国試対策を実施し、評価する。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 保健師国家試験模試を段階的・定期的を実施し、出題頻度の高い保健統計、疫学、関係法規について、外部講師による集中セミナーを開講し知識の定着を図った。第109回保健師国家試験(2023年2月)は18名が受験し全員合格、合格率100%を維持した。</p> <p>③国家試験の合格に向けて、学生、教員、保護者が一丸となって取り組む。 □達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 模擬試験結果や学習教材への取り組み状況を学生担当教員と共有し、個々の学習状況を把握し、特に支援の必要な学生については、面談を行い、学習習慣や方法、生活も含めた指導を行っている。学習成果が上がらない学生については保護者も含めた面談を行い、精神面・生活面への支援を協力して行うようにしている。</p> <p>◆保護者説明会、3者(保護者・学生・教員)面談を有効活用し、成績不振者の学習支援に保護者の協力を得る。 □達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 保護者説明会で看護学科独自の学生支援体制、国家試験対策について説明している。10月2日にオンラインで保護者懇談会が開催され、看護学科では39名の個別面談が実施された。就学態度、成績、学習状況、学生生活などについて相談に対応するとともに、保護者の方への支援・協力を依頼した。</p>
4. 市民公開講座の計画・実施	<p>①COVID-19の感染状況を踏まえながら、市民公開講座を再開する。 ◆感染対策を講じながら、市民公開講座を計画し、実施する。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 7月2日(土)10:00-11:30 白子キャンパス1号館(1701教室)で実施した。内容は①本学豊田長康学長による、桜の森病院紹介と大学の取り組みについて、②本学前看護学部長大西和子客員教授による、ストレスとうまく付き合うためのコツについて、講演された。参加者17名で、受講後のアンケート結果は、講演の内容について良かった、今後役に立つという回答であった。</p>